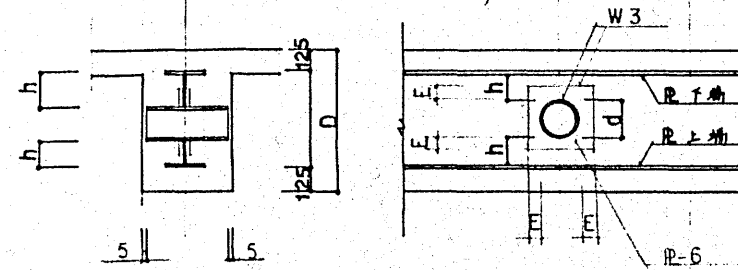


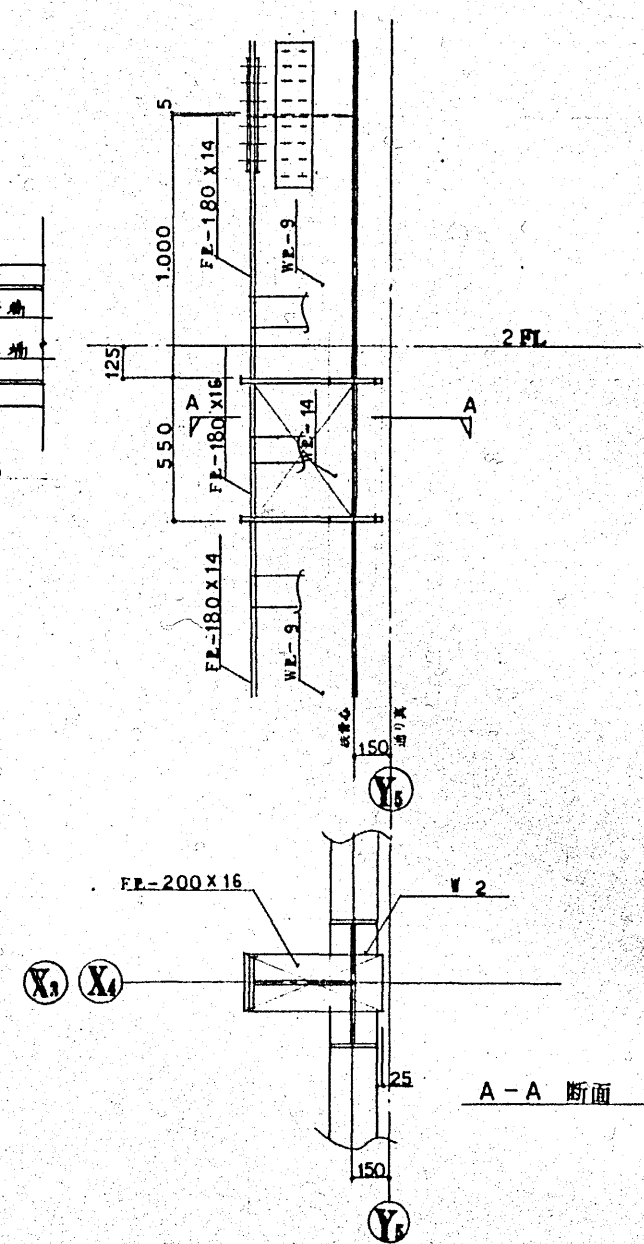
SRC 梁貫通孔補強断面図

スリ-ブ鋼管 STK41 (JIS 規格)

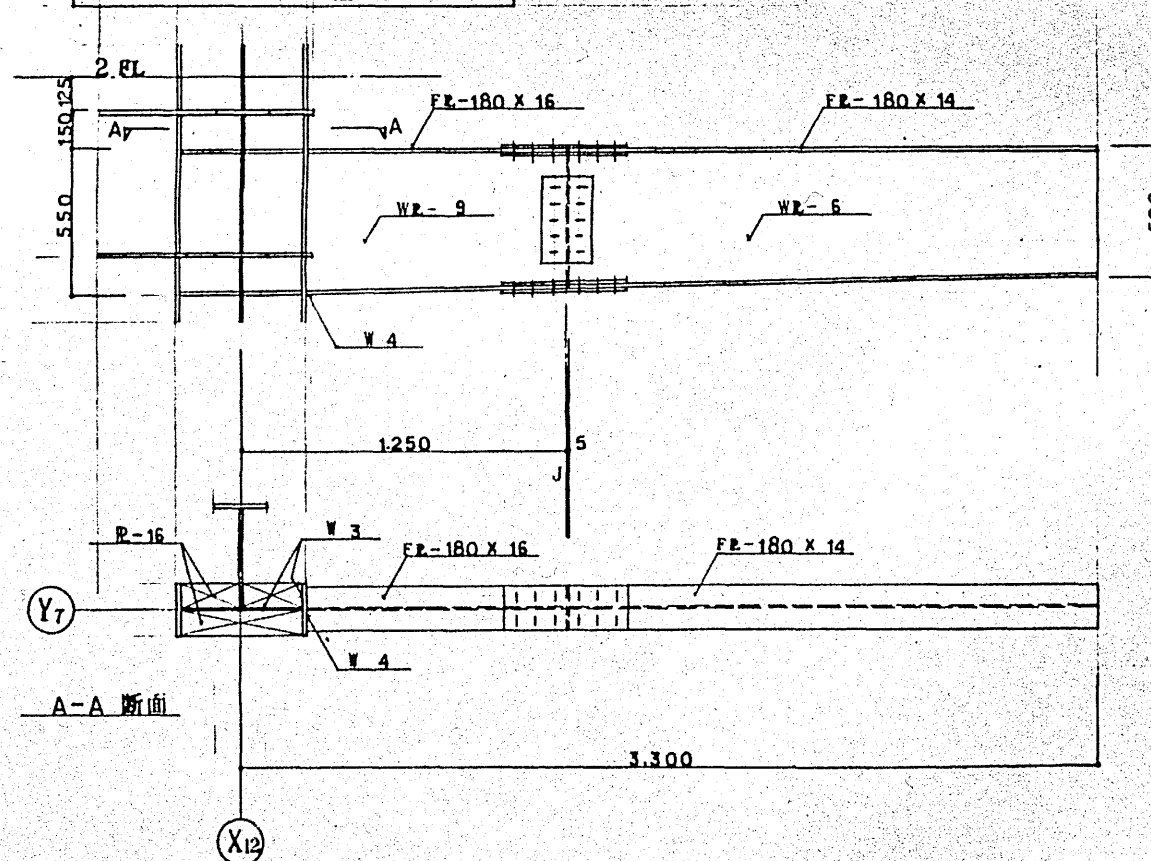
※ 鋼管内部にポリビニル建築用テープ
JIS K 5622 (2種)※ $h \geq 50$, $E = 125$ 

スリ-ブ径	補強鋼管 (d x t)
100 φ	114.3 x 3.5
150 φ	165.2 x 4.5
200 φ	216.3 x 4.5
250 φ	267.4 x 6.0

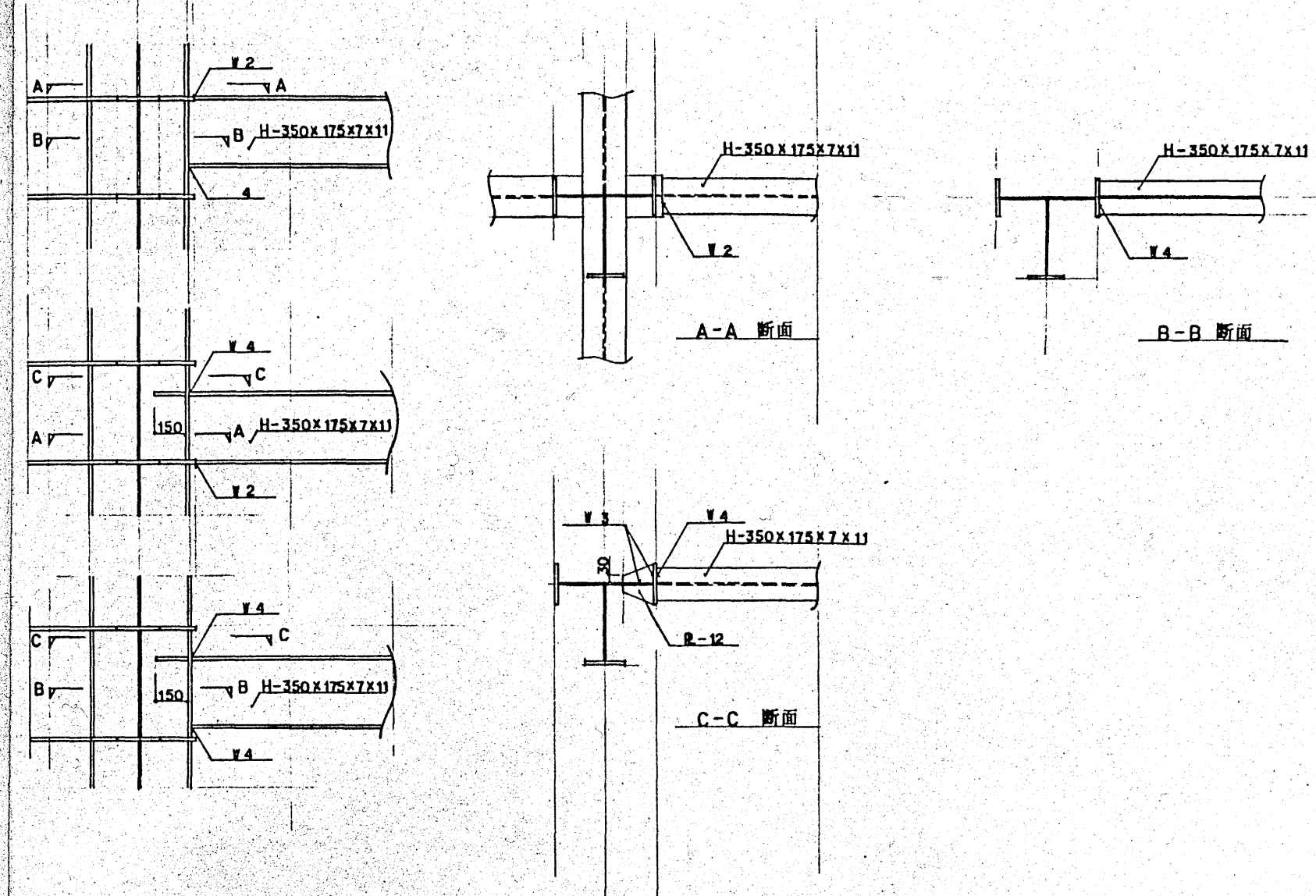
次版部分往鉄筋詳細図 縮尺 1:20



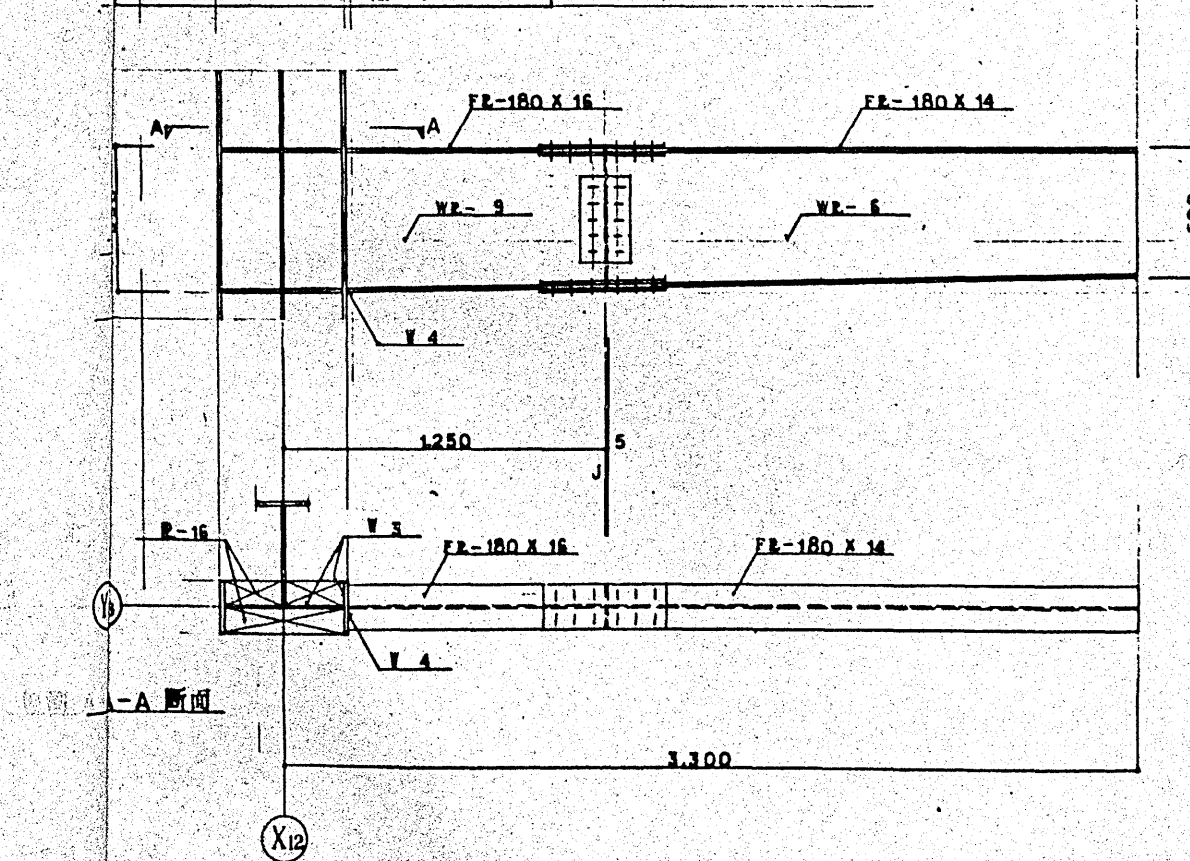
cB2 取合い詳細図 縮尺 1:20

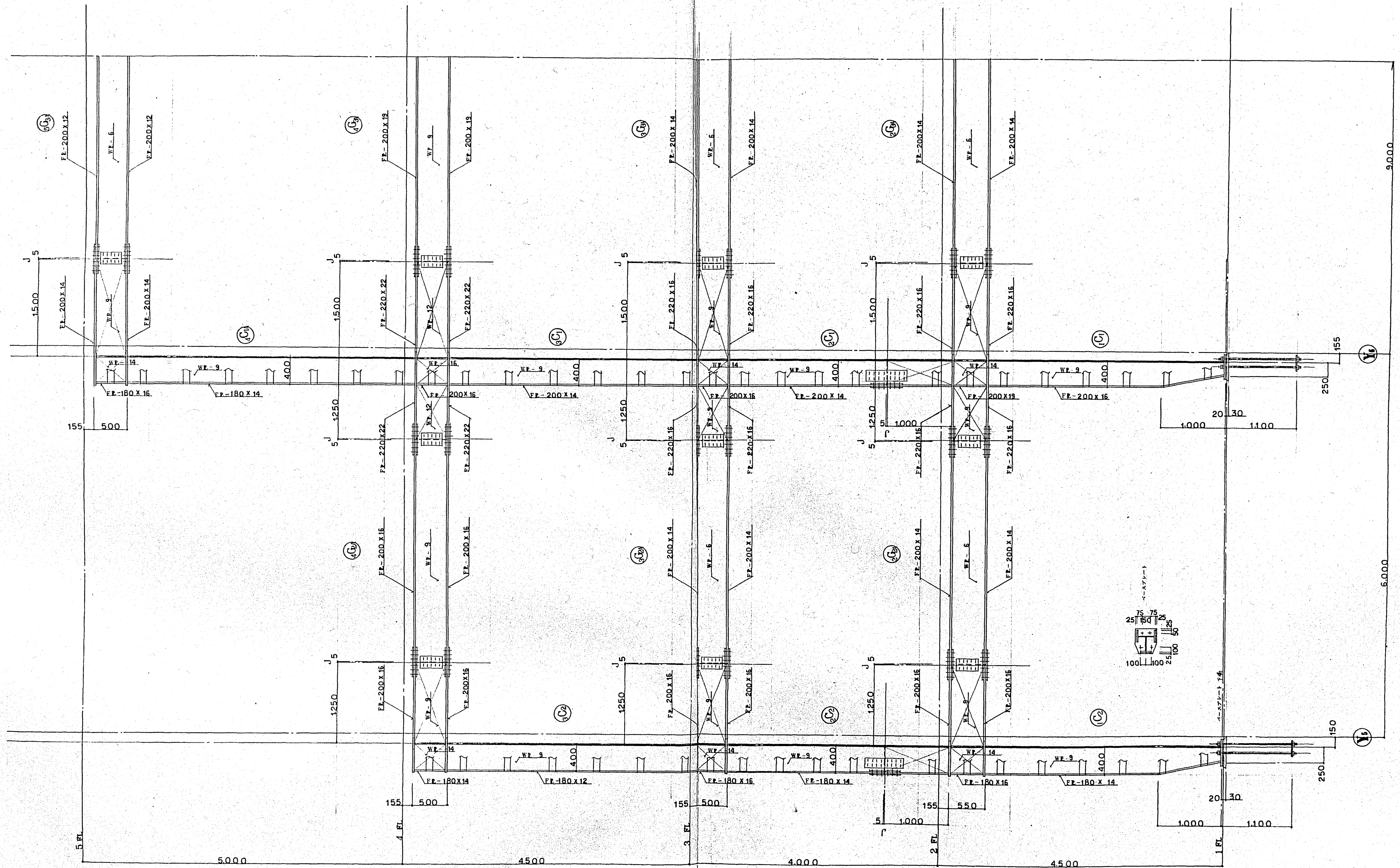


cB1 取合い詳細図 縮尺 1:20



cB2A 取合い詳細図 縮尺 1:20





鉄骨詳細図 縮尺 1:30

第2期工事 中央診療棟

第2期工事 中央診療棟

建設事務局

小田原市立病院建設

工事設計図

局長 係長 係員

図名 鉄骨詳細図 (X8減り)

縮尺 1:30

設計番号 作図56年7月 日

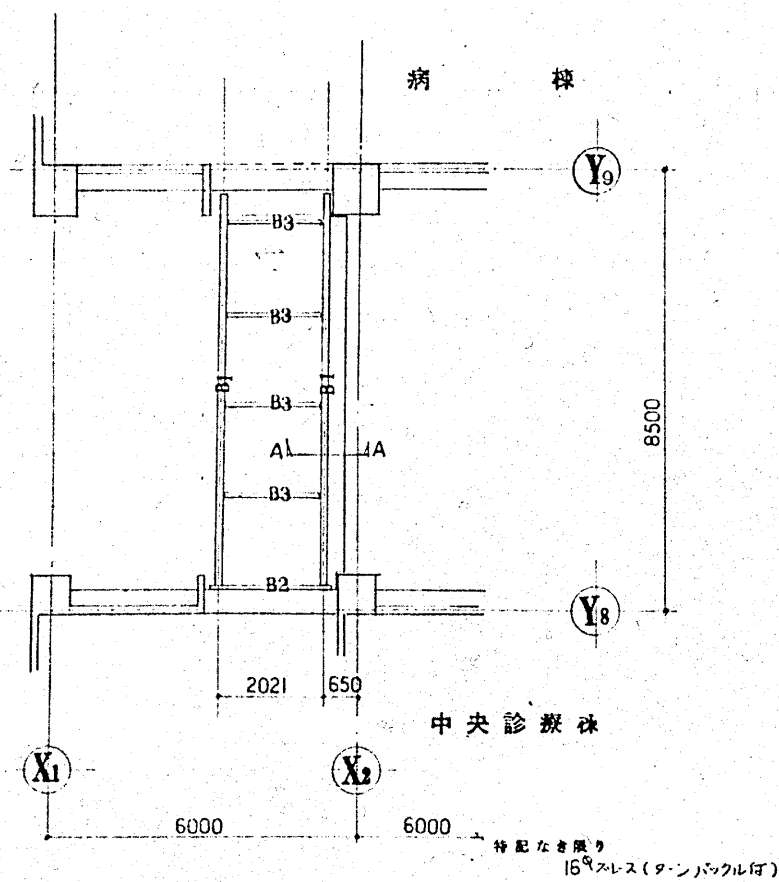
図面番号 構造

株式会社 伊藤喜三郎建築研究所

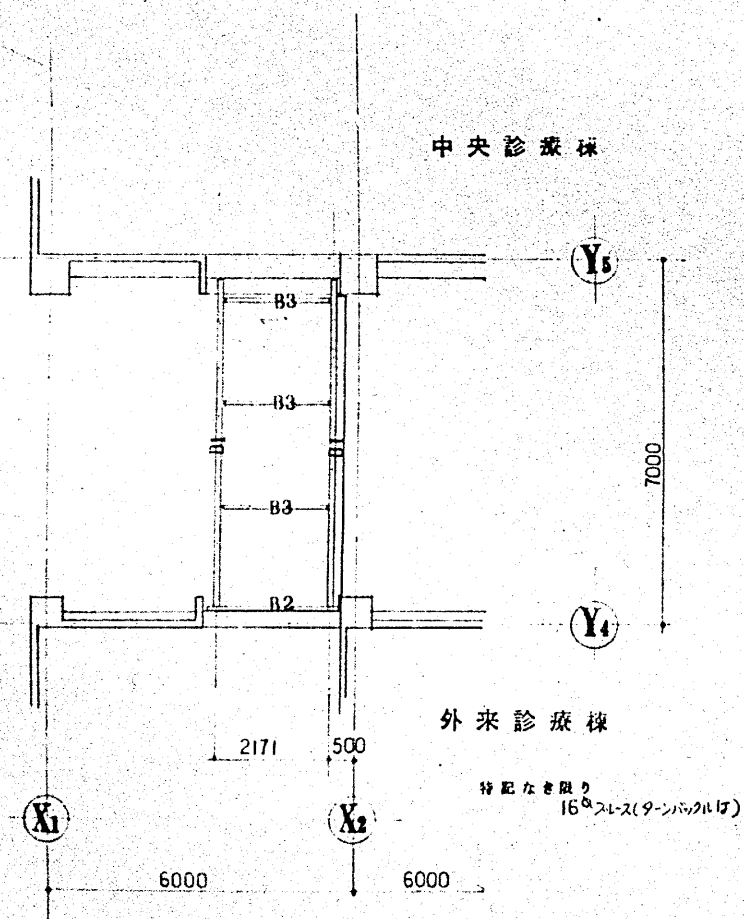
一級建築士事務所登録番号 第2215号 二級建築士登録番号 第03770号

41

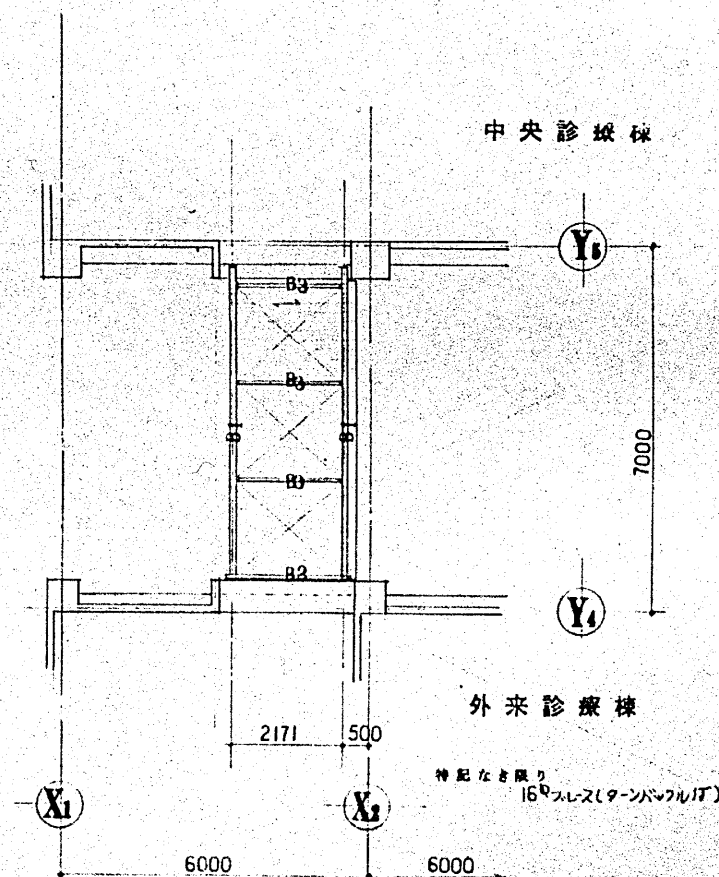
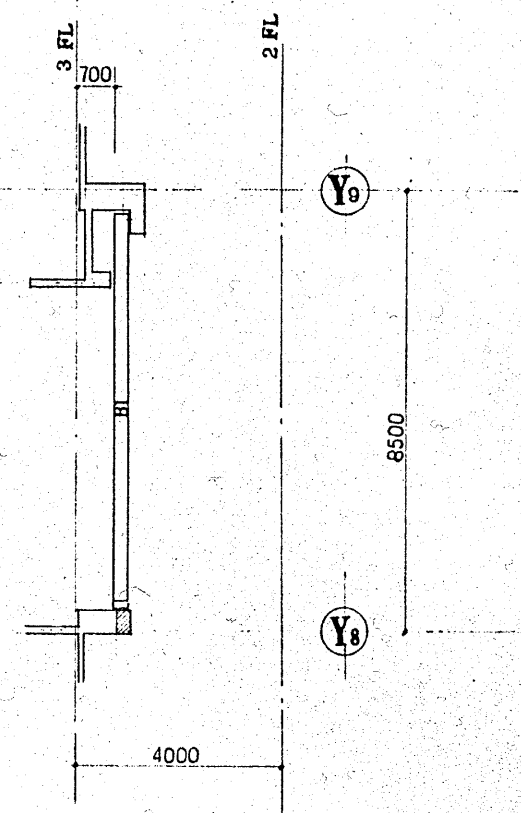
鉄骨廻り脚



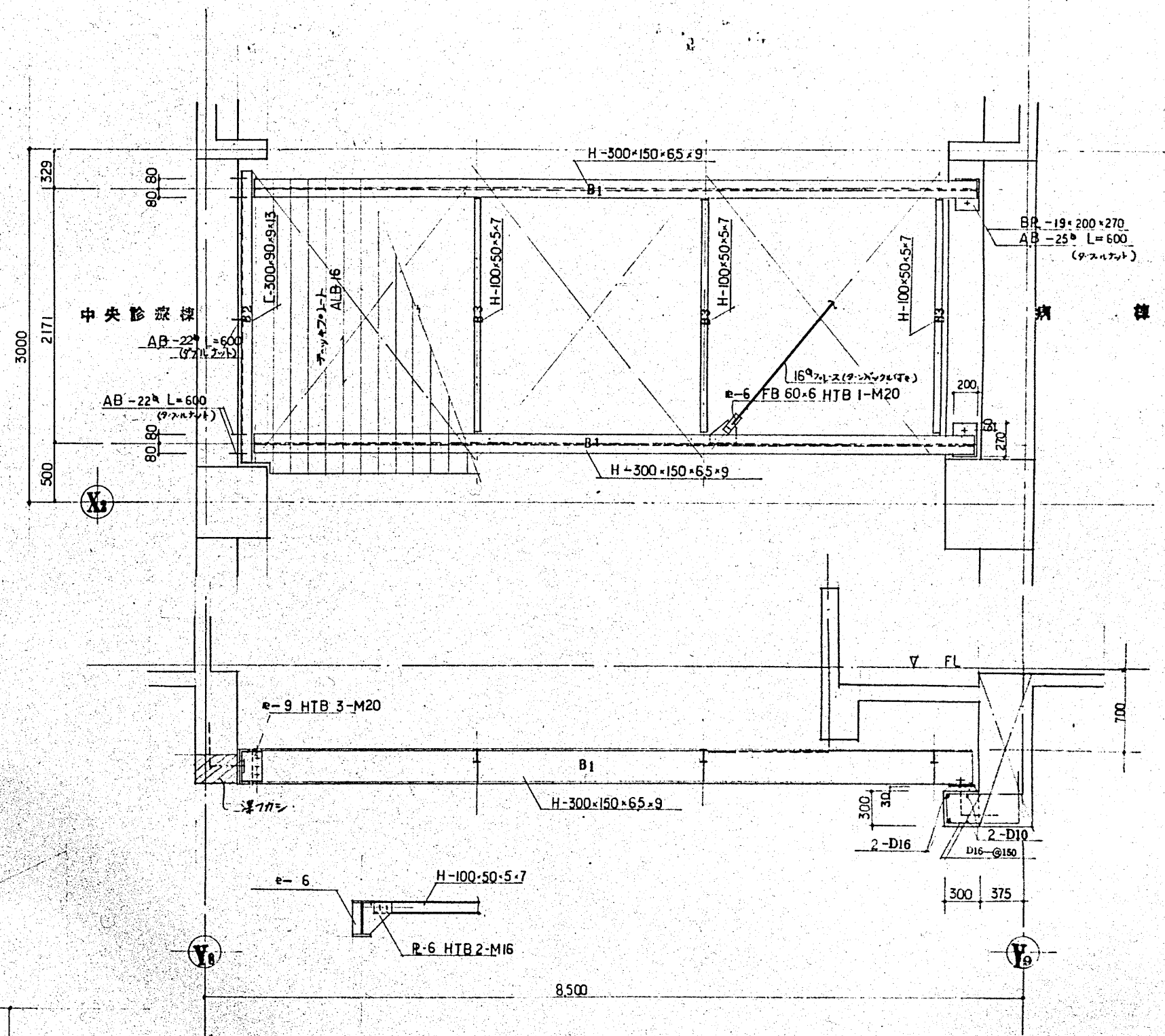
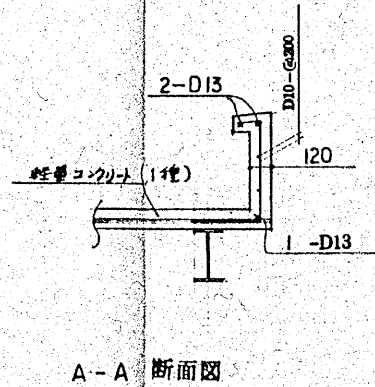
3 階梁伏図 縮尺 1:100



3 階梁伏図 縮尺 1:100



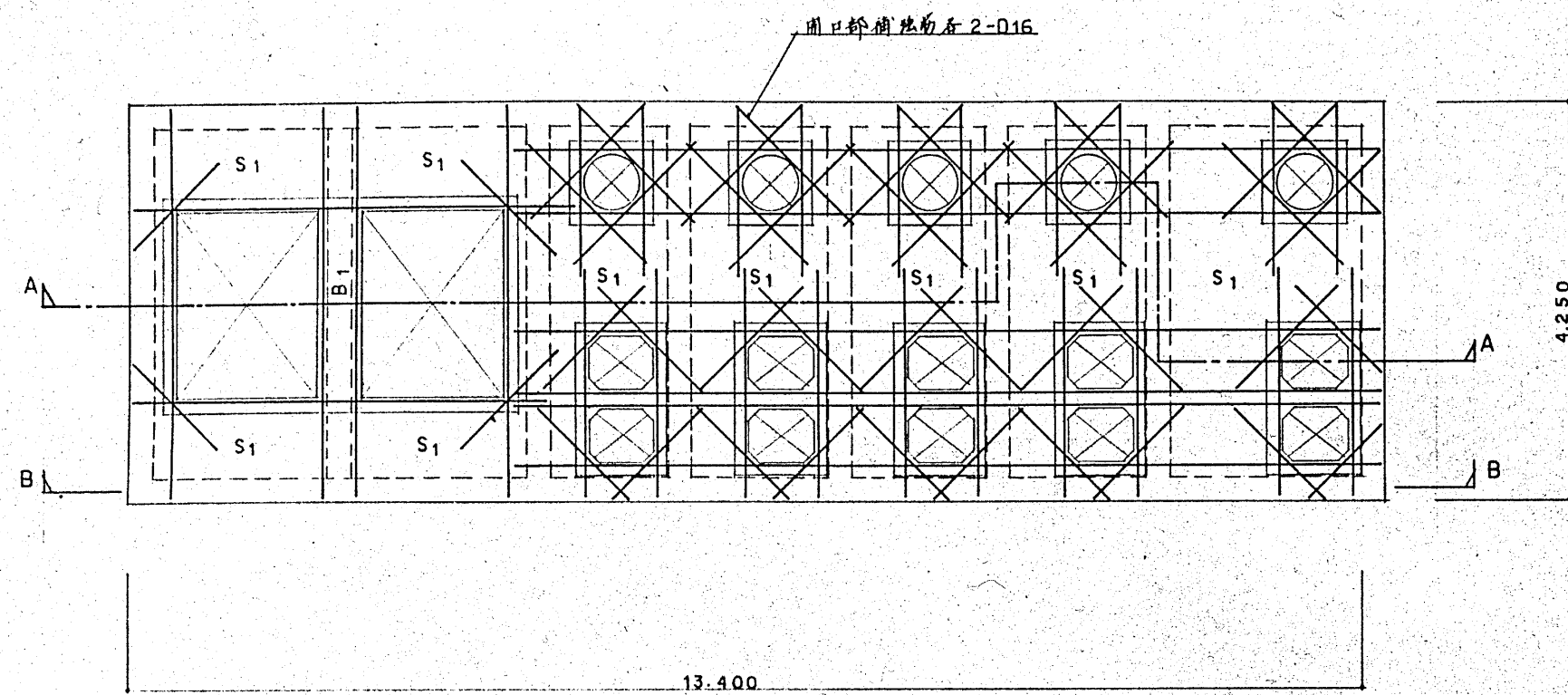
2 階梁伏図 縮尺 1:100



鉄骨詳細図 縮尺 1:30

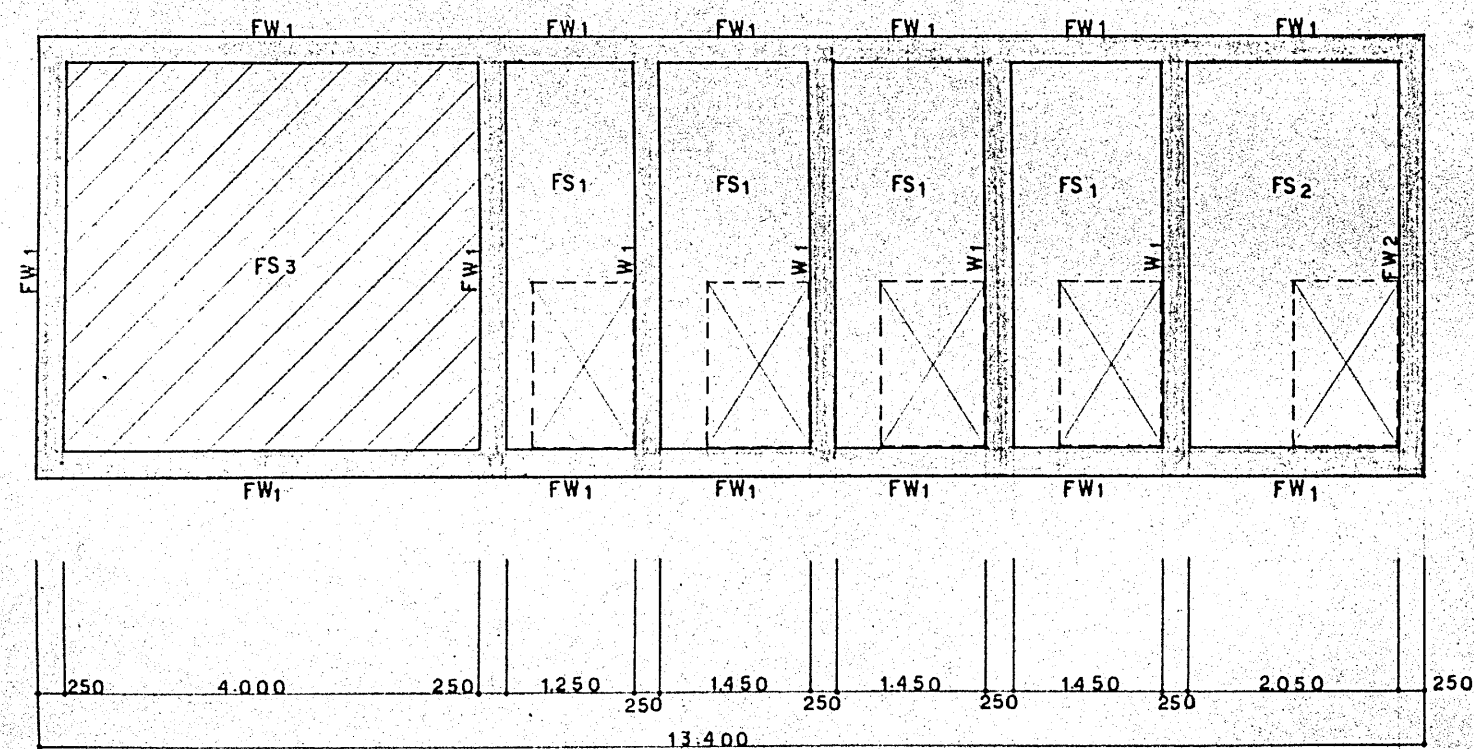
第2期工事
中央診療棟

建設事務局		小田原市立病院建設		工事設計図	
局長 係長 係員	図面 鉄骨詳細図	縮尺 1:100 設計番号	1:30	作成 56年7月	図面番号
1:1	1:1	1:1	1:1	1:1	1:1
株式会社 伊藤喜三郎建築研究所		一級建築士事務所登録番号 第2115号		一級建築士登録番号 第05770号	



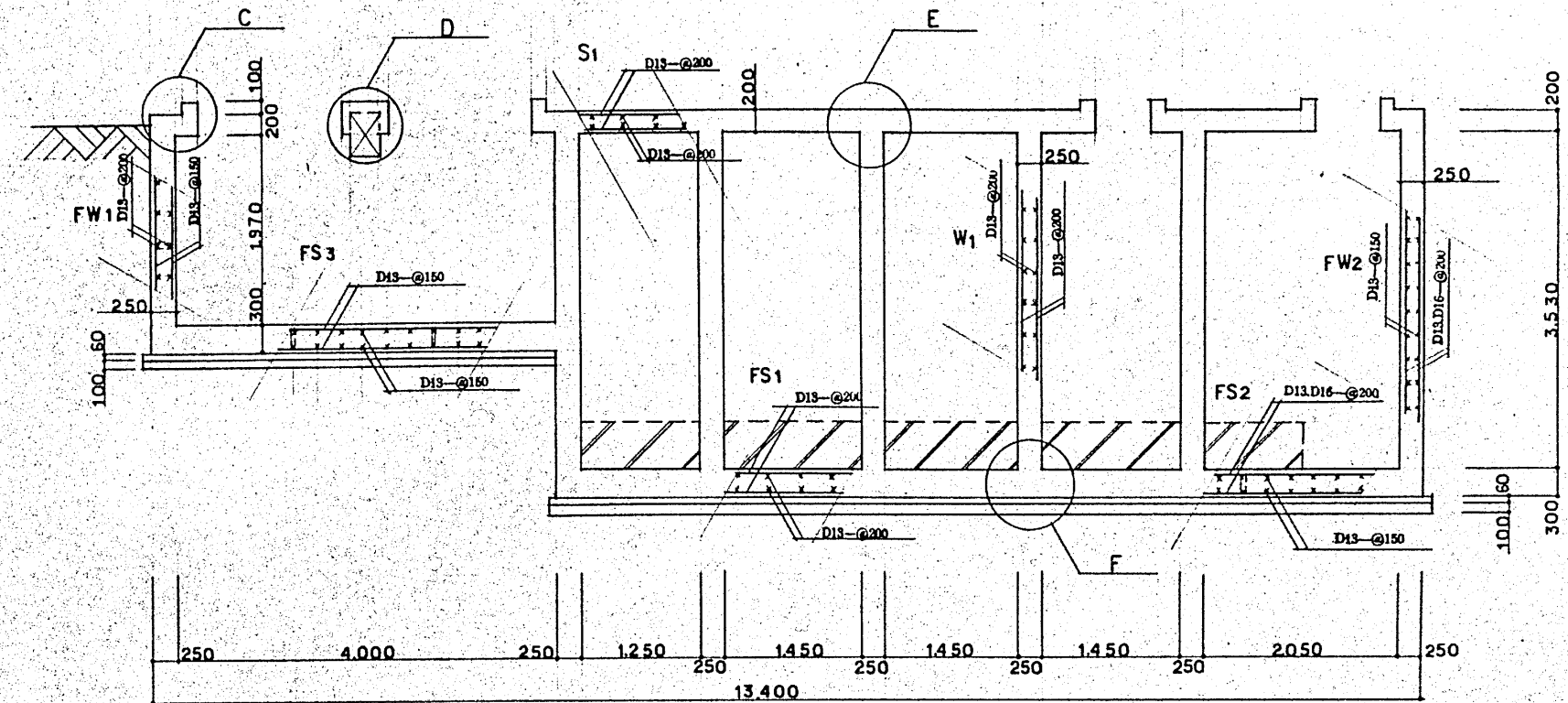
床版伏図 縮尺 1:50

開口部表示



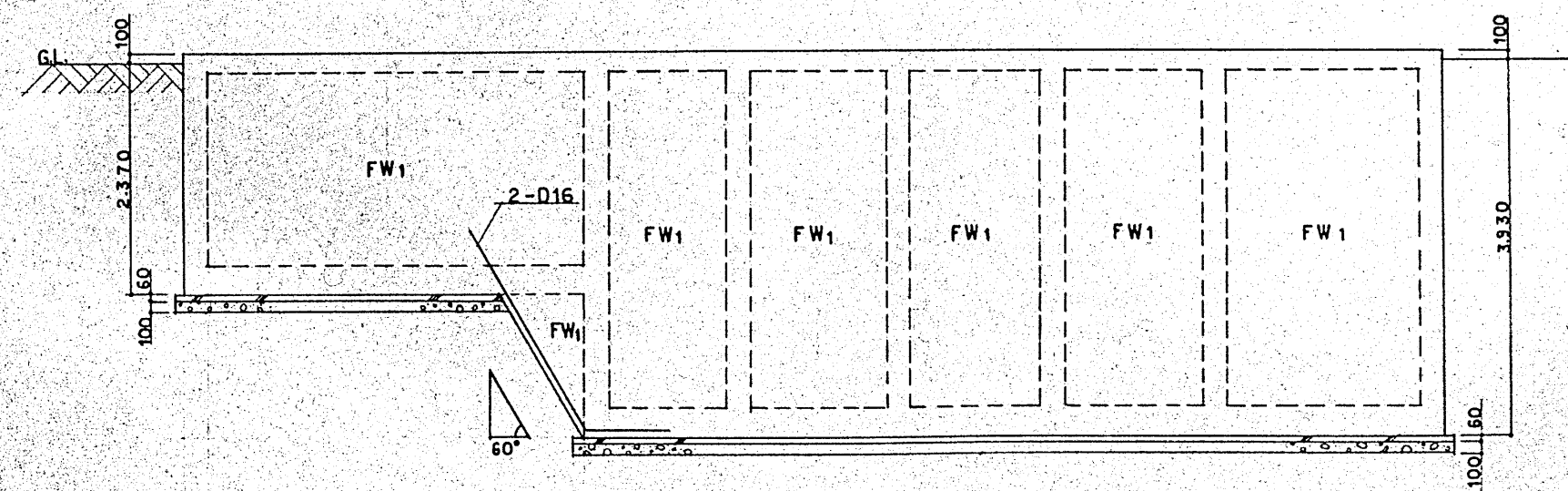
底盤伏図 縮尺 1:50

開口部表示
基礎バール 原寸 +1560

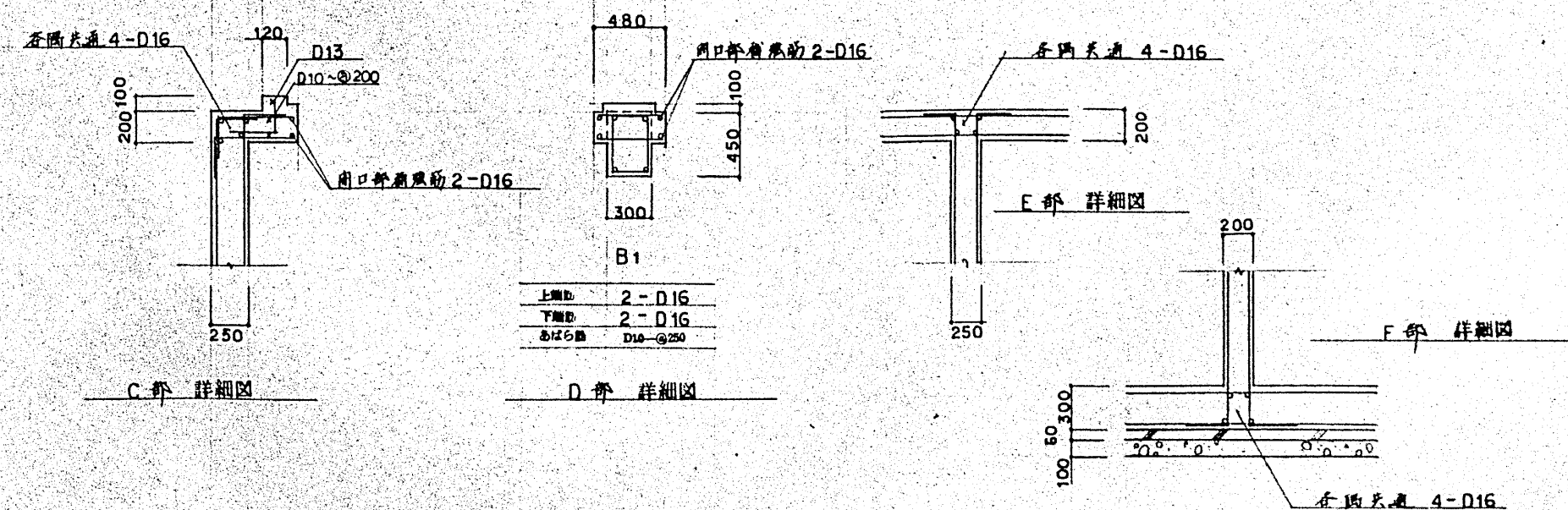


A-A断面 配筋詳細図 縮尺 1:50

共通事項 縮尺 D10-@1000



B-B断面図 縮尺 1:50



小田原市立病院建設工事設計図

第3期工事(外来診療棟)

建築工事

構造



株式会社 伊藤喜三郎建築研究所

KISABURO ITOW ARCHITECTS & ENGINEERS INC.

特記 項

- | | | | |
|----|---------|----------------------------|---|
| 1. | コンクリート: | 普通コンクリート | ・設計基準強度 $F_c = 240 \text{ kg/cm}^2$ (病 棟 --- B1F ~ 3F 床下)
$F_c = 210 \text{ kg/cm}^2$ (その他)
* 病棟、中央診療棟 地下部分 (床下部分) は、本設コンクリート (水セメント比 50% 以下、スラグ 15 ~ 18cm、
透過性混和材使用) とす。 * 打増しコンクリートの打増しは 20mm とす。 |
| 2. | 鉄筋: | | ・SD35 --- D19 ~ D29 [JIS-G-3112] --- JIS 規格品
・SD30 --- D16 ~ D10 [JIS-G-3112] --- JIS 規格品
* D19 以上は圧接継手とす。 (柱、梁主筋)
* 柱 HOOK はスパイラルフックとす。 |
| 3. | 鉄骨、鋼材: | 病棟 | ・SM50A --- 柱、梁フランジプレート (JIS-G-3106)
・SS41 --- 柱、梁ウェブプレート (JIS-G-3101)
* 柱、梁ハナプレート (R-t ₃)、SM50A とす。

[中央診療棟]
・SM41A --- 柱、梁端部フランジプレート (JIS-G-3106)
・SS41 --- 柱、梁ウェブプレート、中央フランジプレート (JIS-G-3101)
* 柱、梁ハナプレート (R-t ₃)、SM41A とす。

[外来診療棟]
・SS41 --- 柱、梁
・SSC41 --- 二次部材
・SR24 --- プレス材 |
| | 高力ボルト | | ・F10T 建設省告示 第1795 号に適用の特許型セキ高力ボルト。 |
| | 鉄骨製作 | | ・鉄骨製作は先立入念な施工計画を作成し、監督者の承認を受け、着工とす。 |
| | 鉄骨加工 | | |
| | 溶接試験 | 病棟
中央診療棟 | ・実地溶接部の 30% 以上を溶接試験し、溶接部の耐力を確認す。 |
| | | 外来診療棟
庫
此 | ・建設省普通仕様書、昭和 56 年版 7.9(a)(5)より溶接部の耐力を確認す。 |
| 4. | 杭 | 病棟 | 杭種: HP-スチールパイプ工法 杭長: GL-34.0m
[基礎仕様: Y-10] AC 杭 (A 種) 400φ, HP-スチールパイプ工法 GL-34.0m (マスターセメントミルク工法)
・AC 杭 (A 種) は、建設省普通仕様書、昭和 56 年版 7.1.1 ~ 7.1.1.6 より、耐力を確認す。
・杭施工は先立入念な施工計画を作成し、監督者の承認を受け、着工とす。 |
| 5. | 壁符号: | | ・特記なし限り 外壁 W15
内壁 W12 (但し B1F 内壁は全て W15 とす。) |
| 6. | 普通仕様書: | | ・建設大臣官庁官制部「建築工事普通仕様書」昭和 56 年版 |
| 7. | 床下部分: | |  |
| 8. | 止水板: | | ・地下外周部で上に接する部分の打込部分には止水板を打込む (止水板 W=200 鋼板製) |

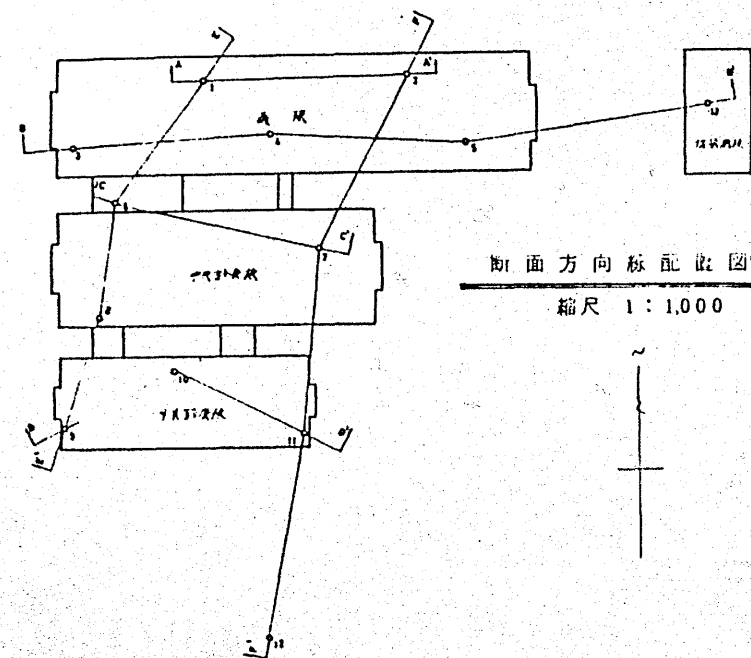
地層想定断面図

柱状図記号凡例

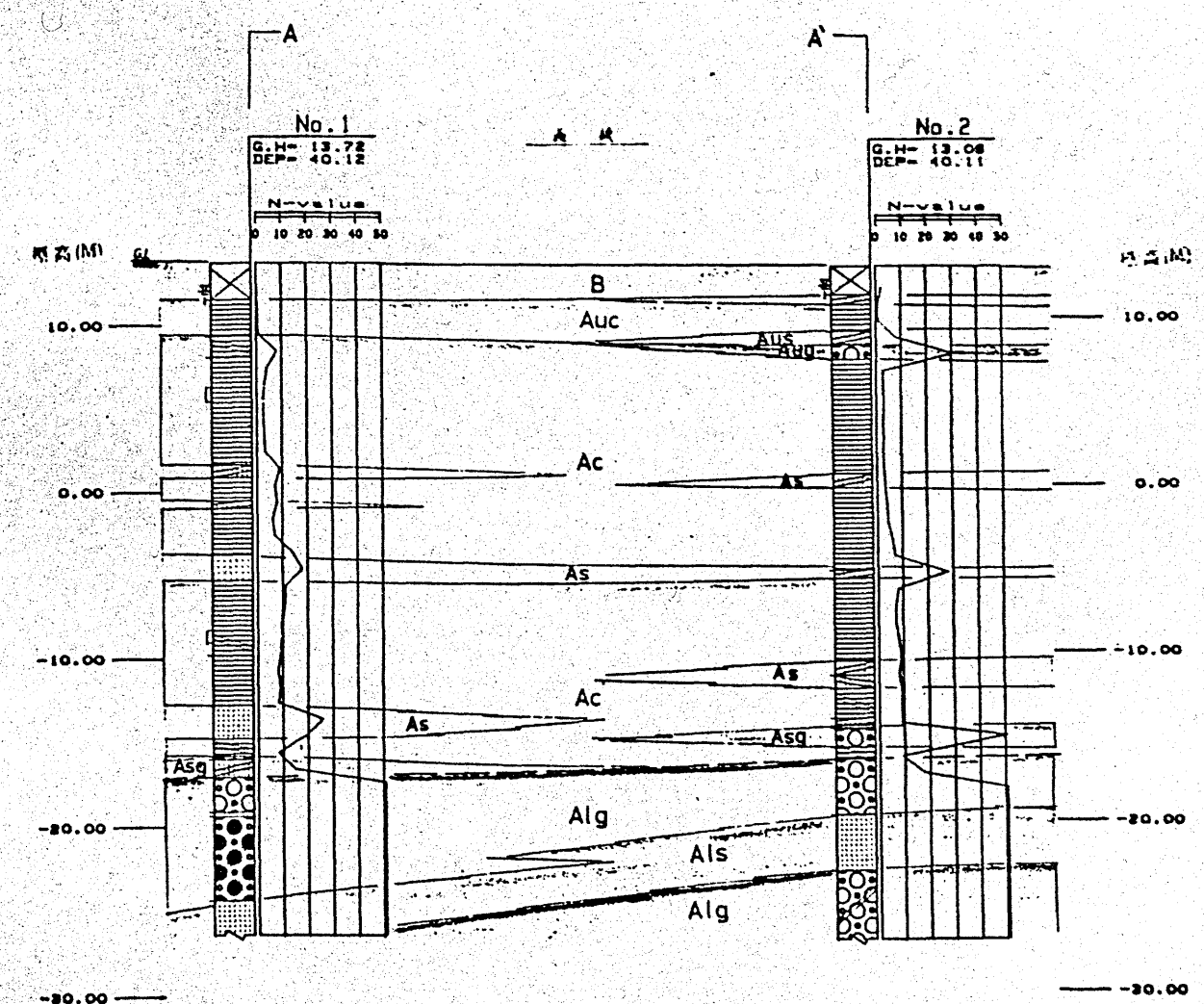
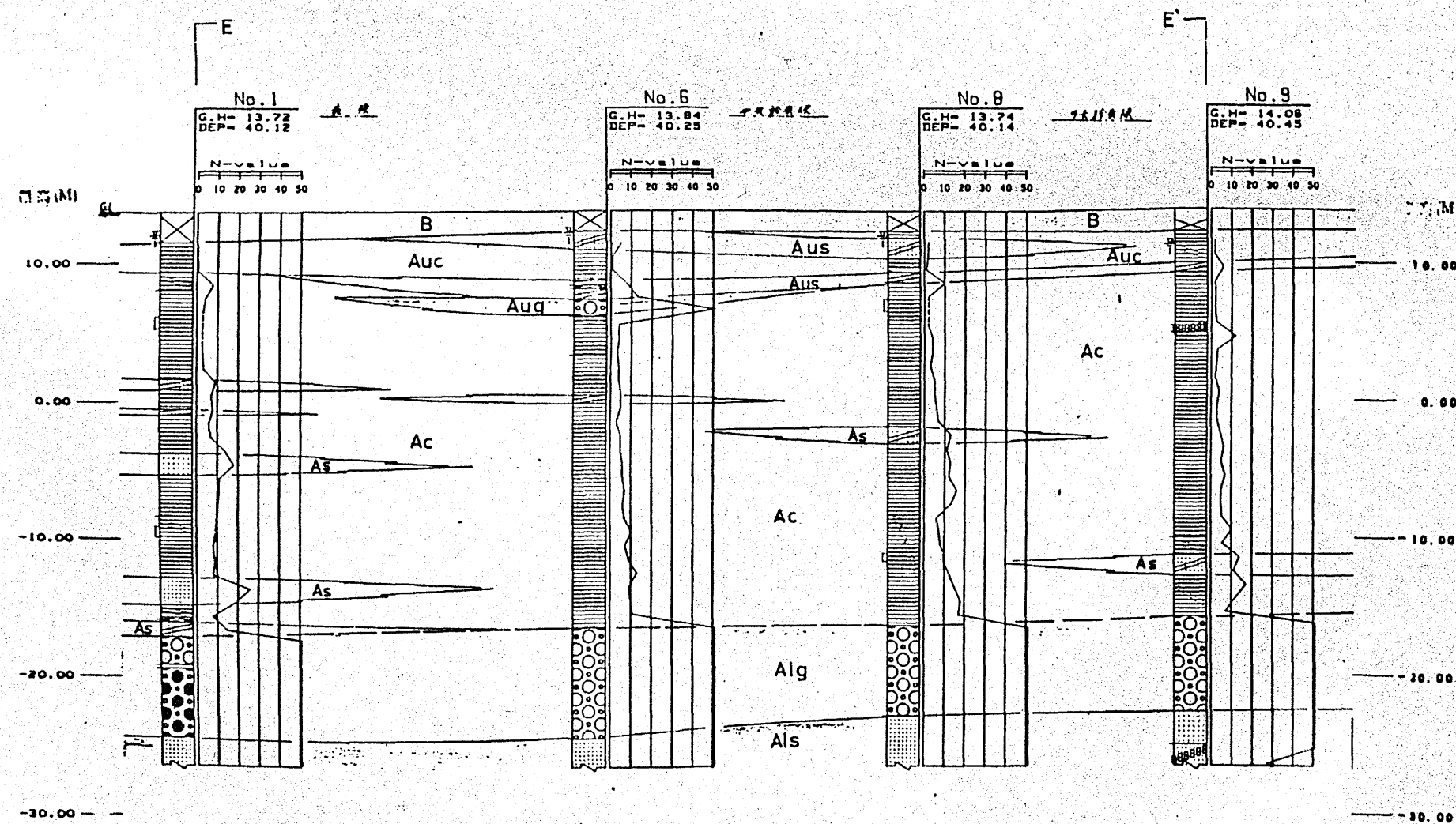
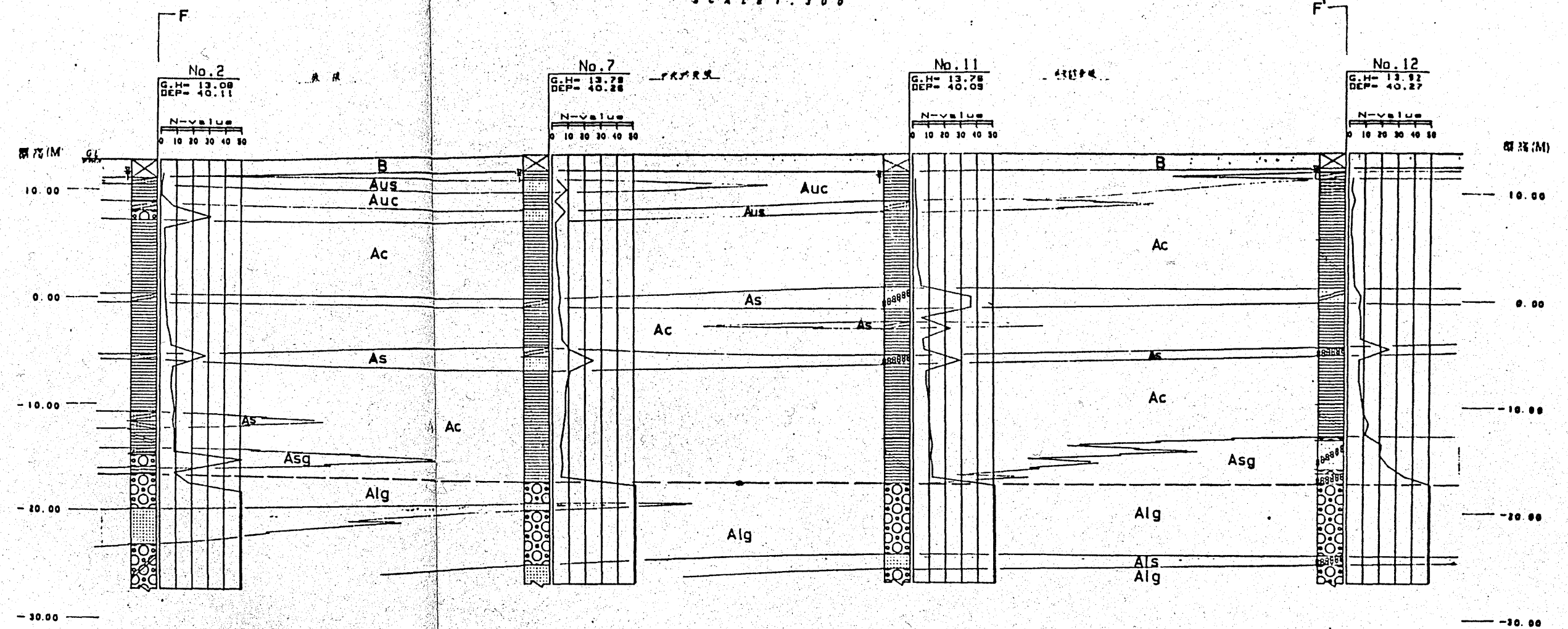
土質名	記号
埋土	×
粘土	■
細砂、中砂	□
粗砂	△
砂	○
玉石混り砂	●
砂	○
粘土質	■
粘土混り	■
砂混り	○

地層記号凡例

記号	地層名	土
B	埋土層	土
Auc	粘土層	上部層
Aus	砂層	上部層
Aug	砂層	上部層
Ac	粘土層	中部層
As	砂層	中部層
Asg	砂層	中部層
Alg	砂層	下部層
Als	砂層	下部層
Dc	洪積層	層



地層想定断面図
SCALE 1:300



第3期工事
外来診療棟

建設事務局

小田原市立病院 建設

工事設計図

局長 係長 係員

土質柱状図 - 1

設計番号

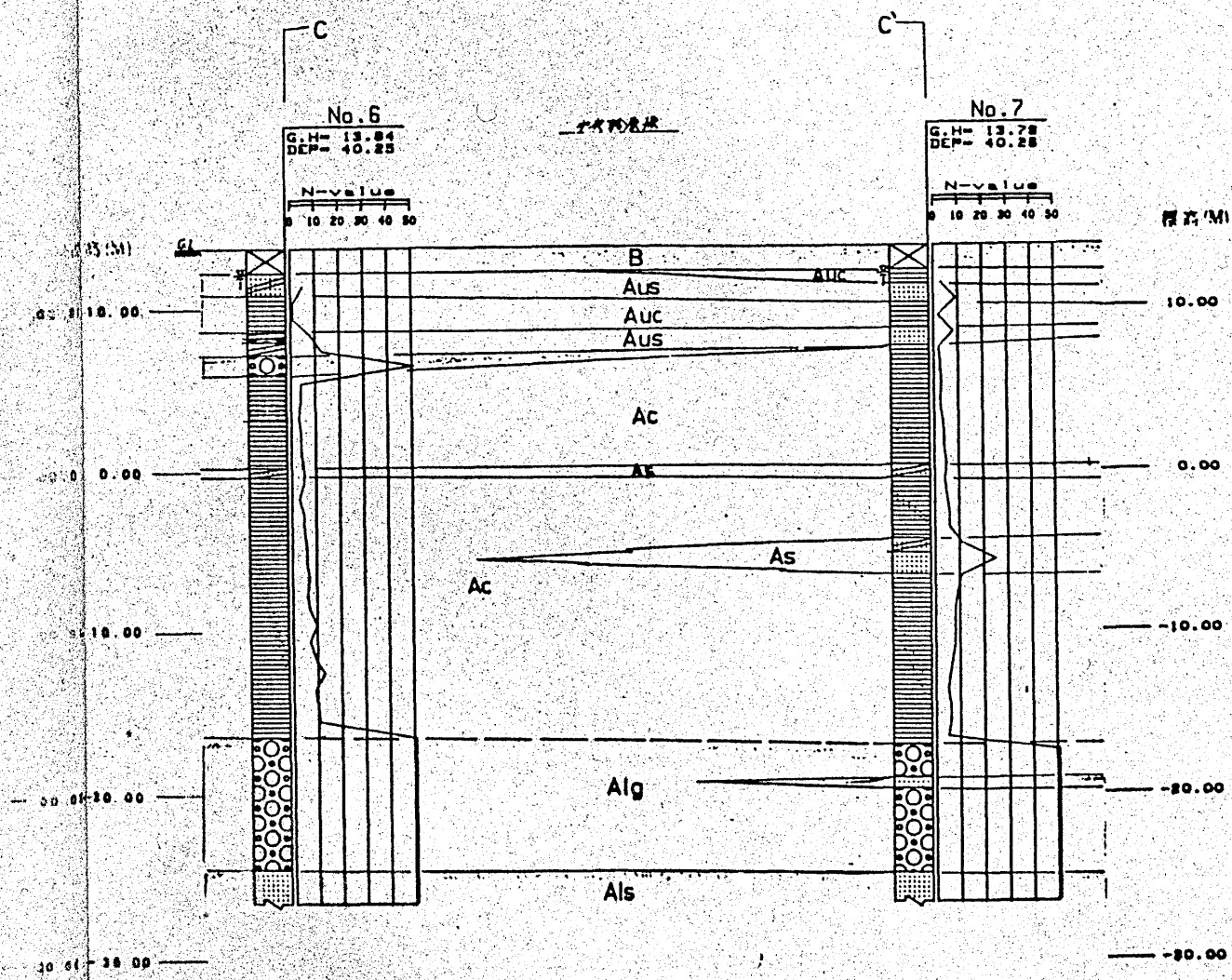
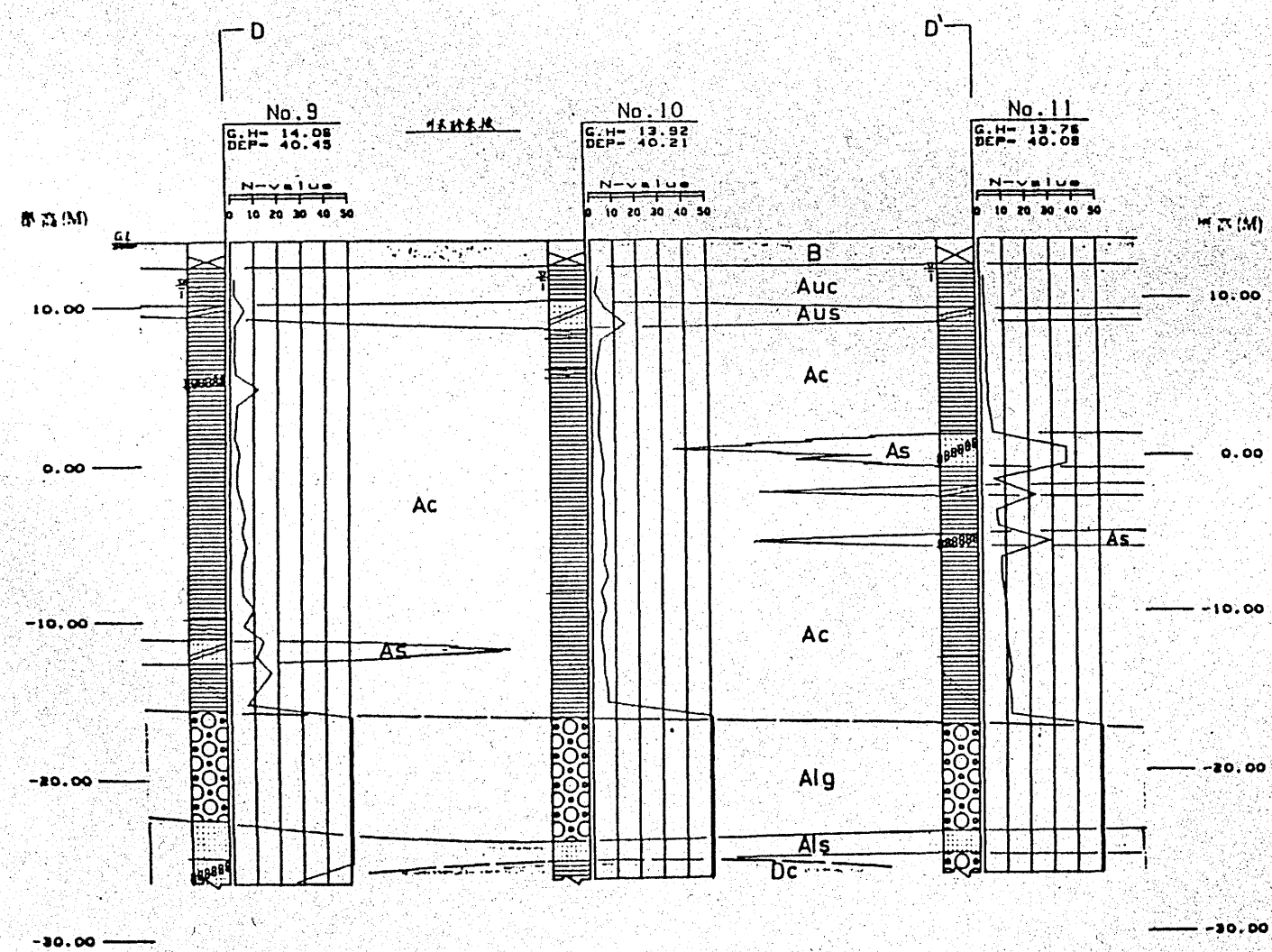
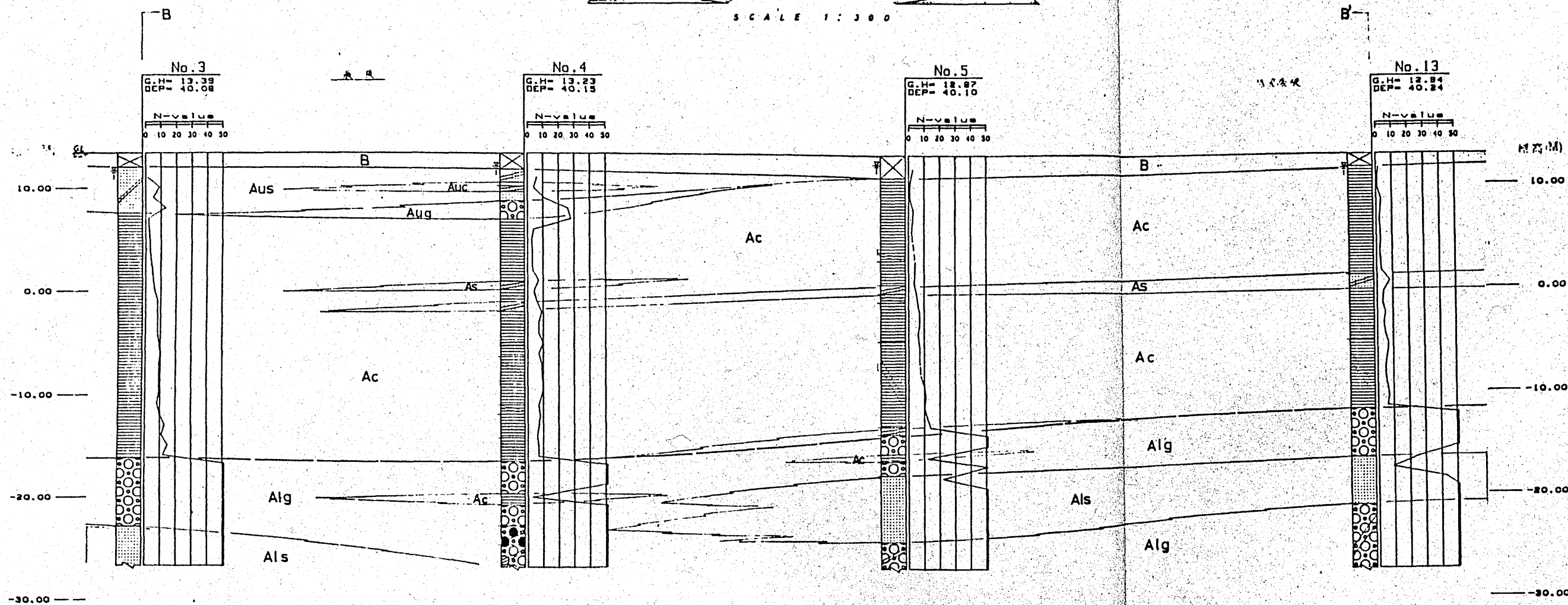
縮尺 1:300

作図 56年7月 日

構造

株式会社 伊藤三郎建築研究所

地層想定断面図
SCALE 1:300



第3期工事
外来診療棟

建設事務局

局長 係長 係員

局章 係章 係員章

小田原市立病院 建設

土質柱状図 - 2

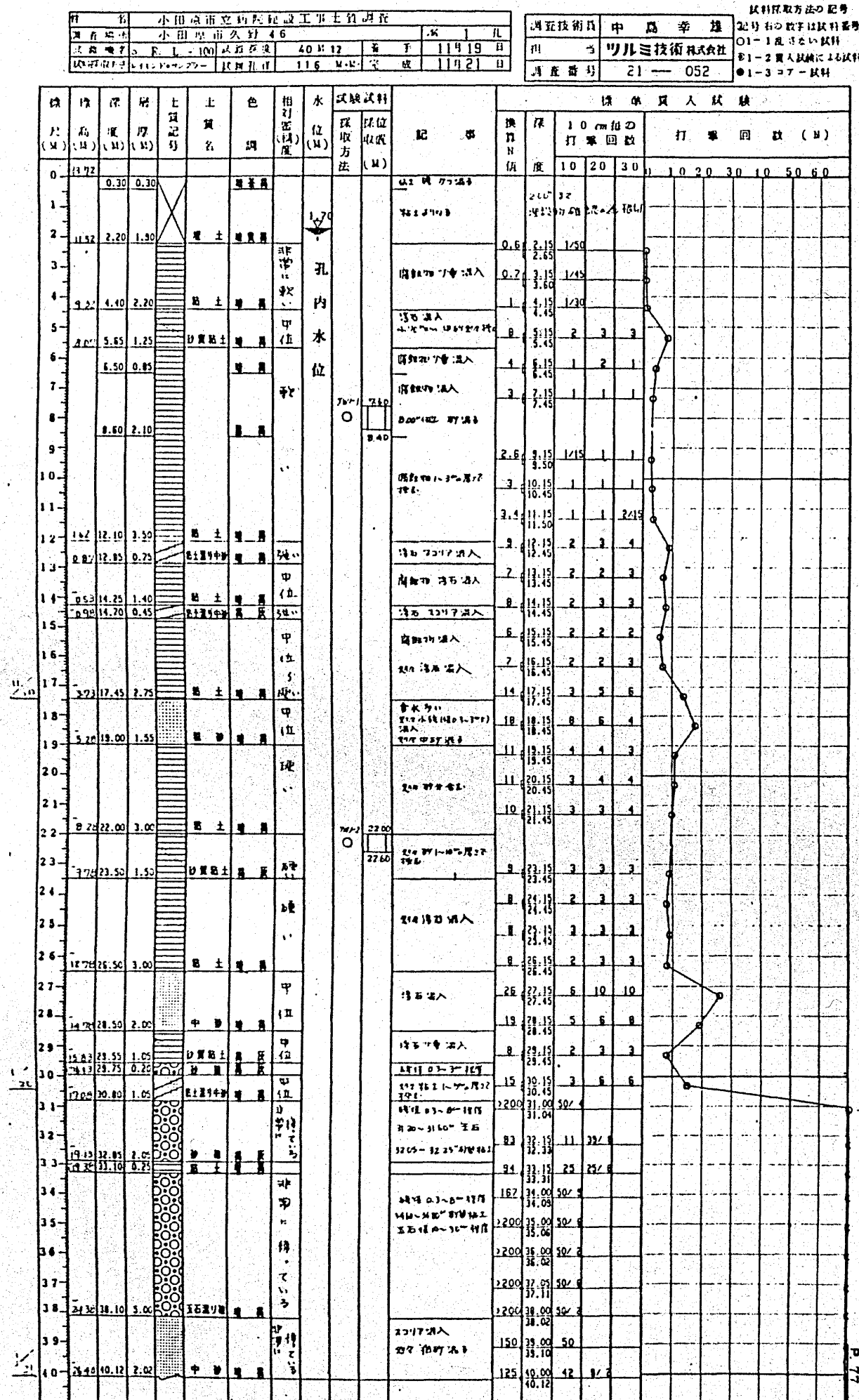
1:300 設計番号 1:1 作図56年7月 日

工事設計図

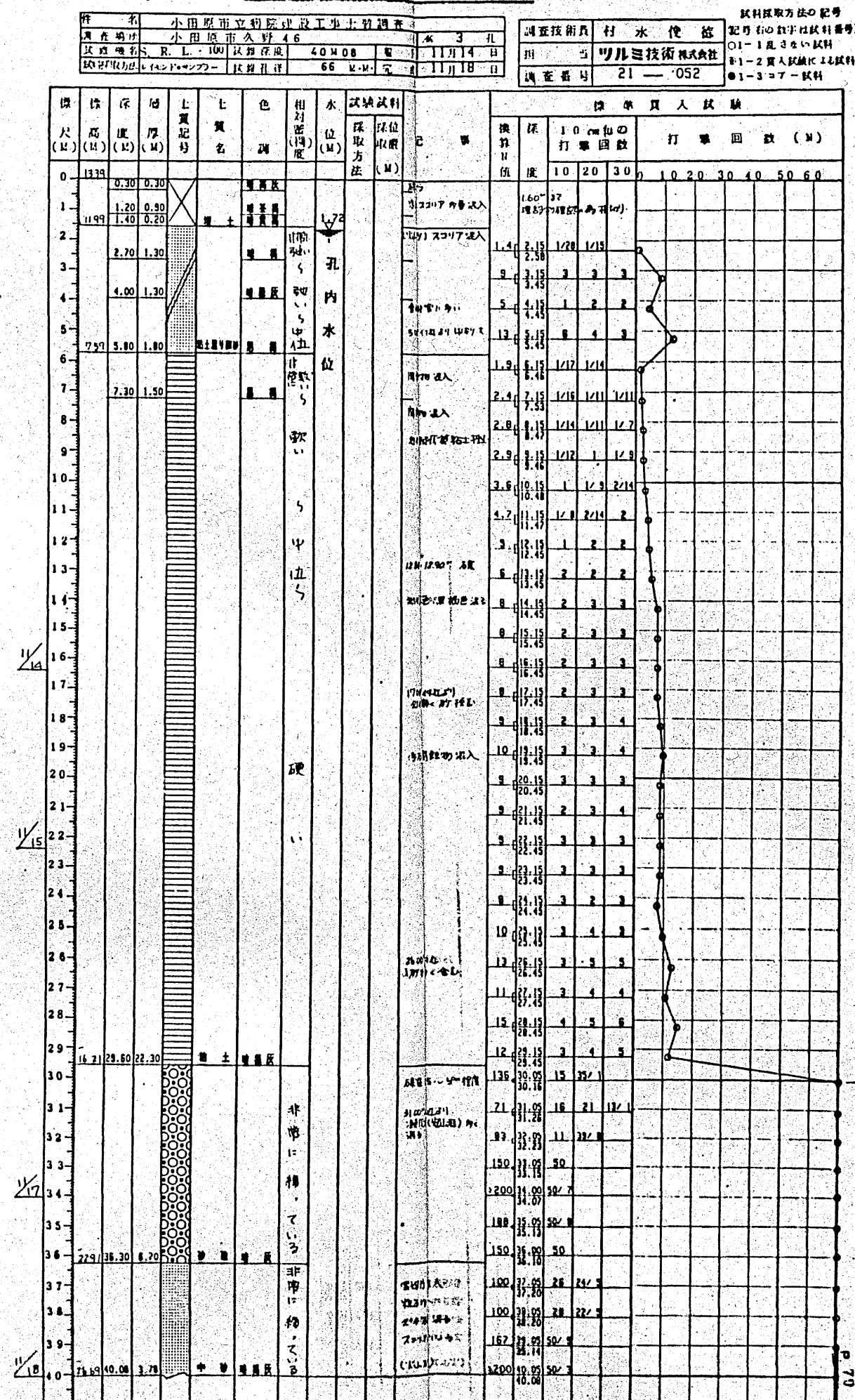
図面番号 3

株式会社 伊藤喜三郎建築研究所

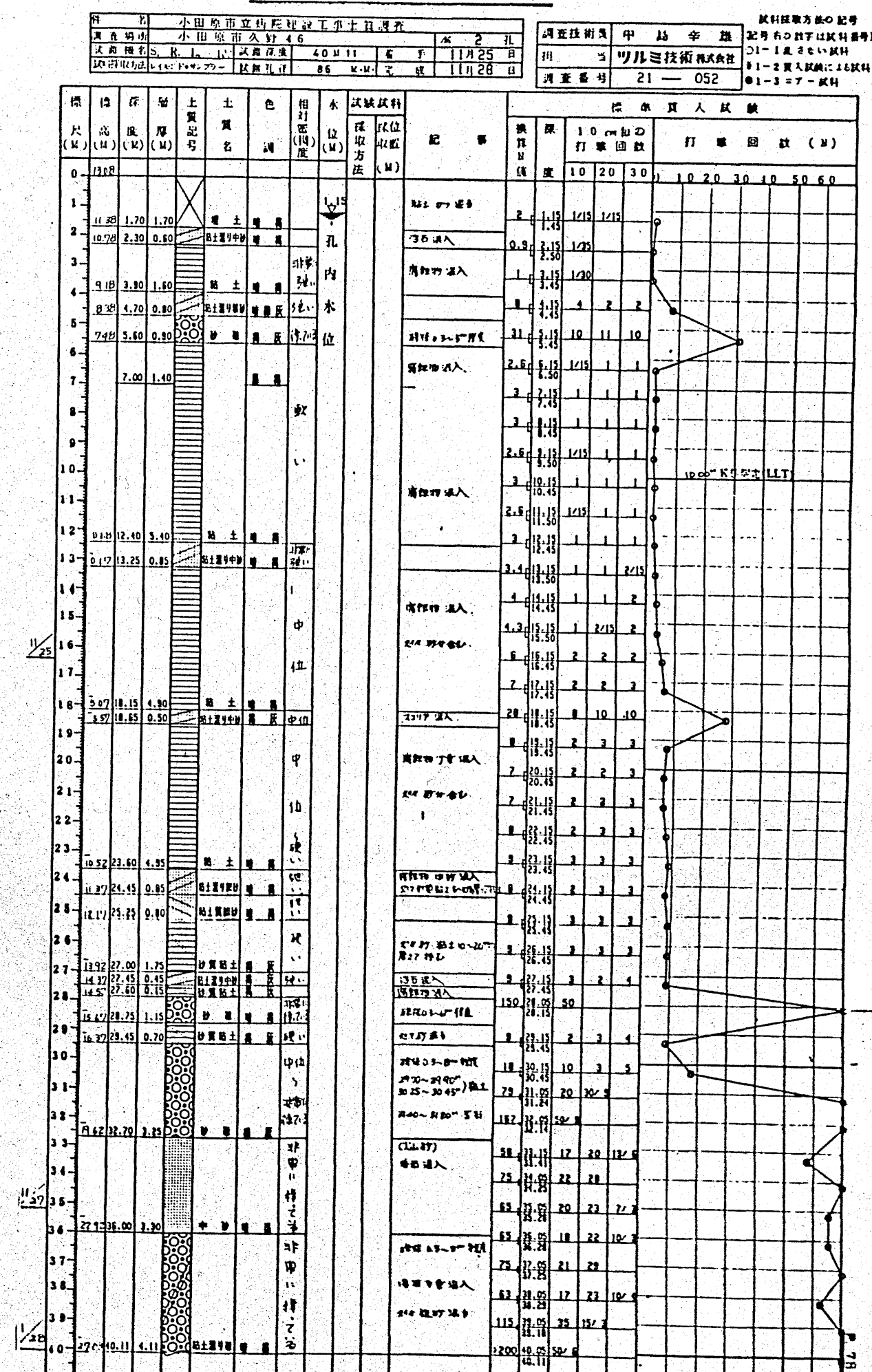
土質柱状断面図



土質柱状断面図

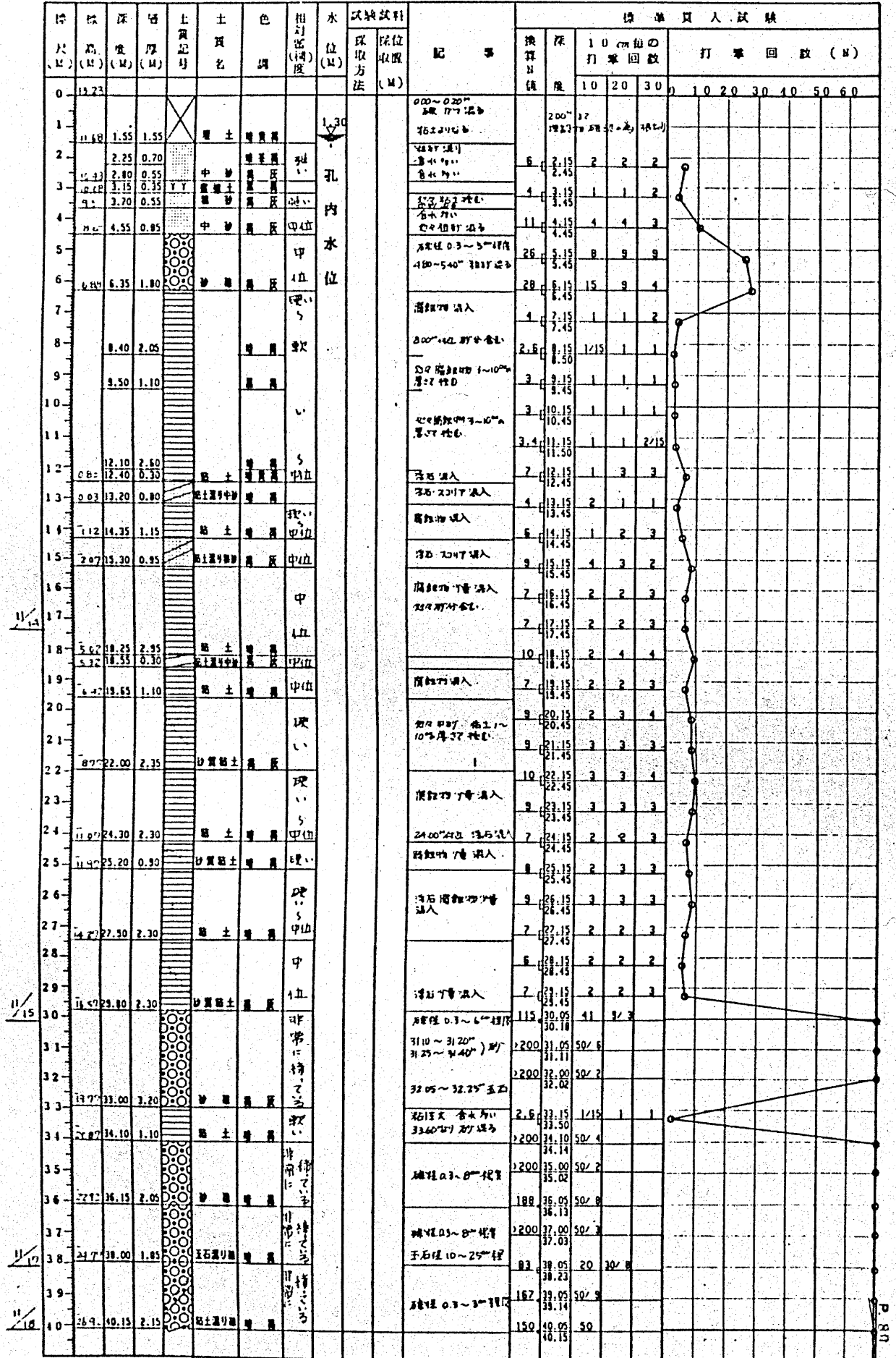


土質柱状断面図

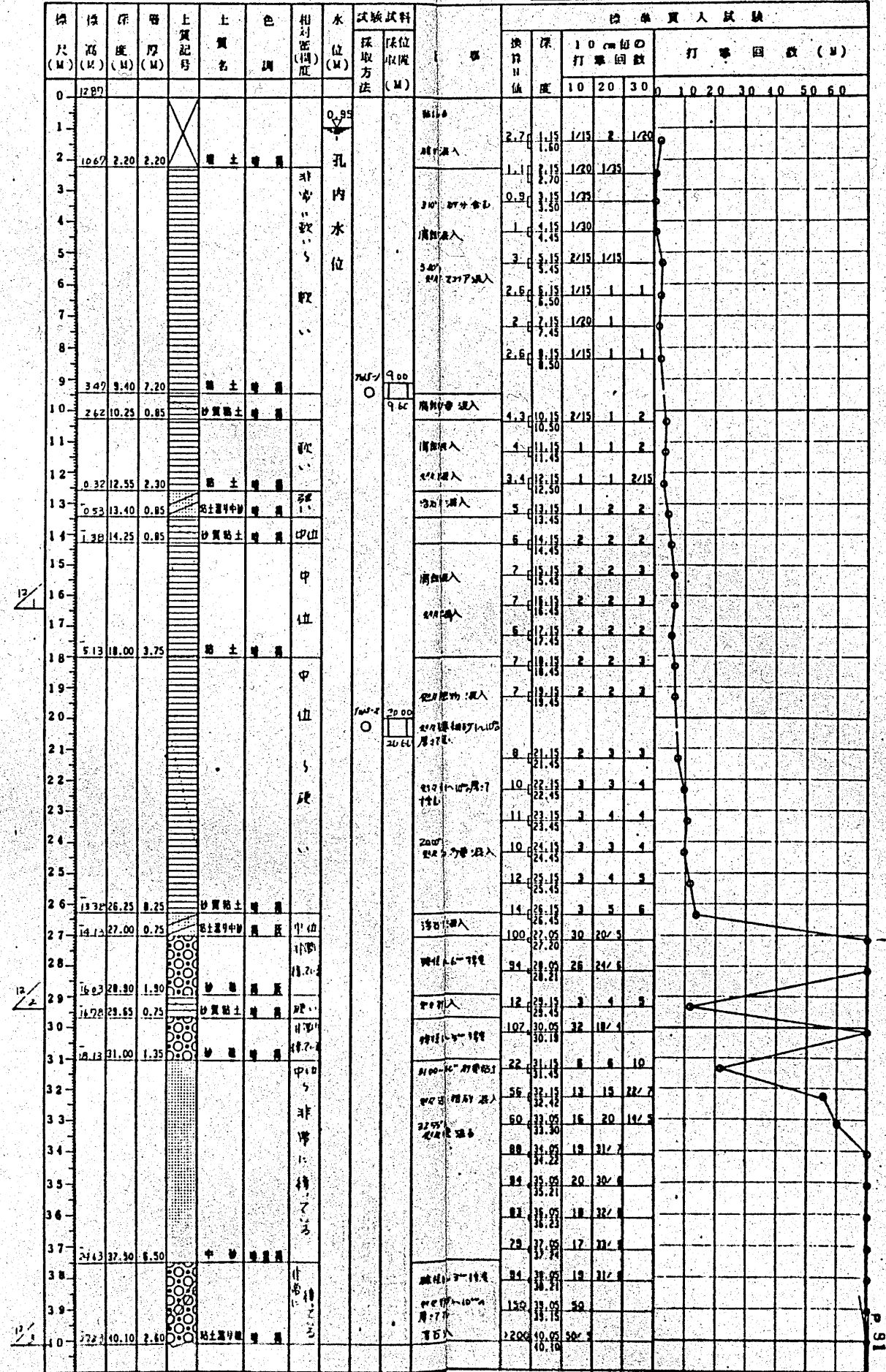


土質柱狀断面図

第 2	小田原市立病院建設工事土質調査				第 4	凡	調査技術員	中 島 幸 雄	電号 60 52 53 (林事務所)
在 線 中	小田原市久保 4 6				第 4	凡	型	〇〇 凡 技術研究所	〇1—2 電 号 60 52 53 (林事務所)
調査方法	R、L、100	40 15	電 手	11 月 14 日			調査番号	21 — 052	〇1—3 電 号 60 52 53 (林事務所)
調査場所	小田原市久保 4 6	40 15	電 手	11 月 18 日					〇1—3 電 号 60 52 53 (林事務所)

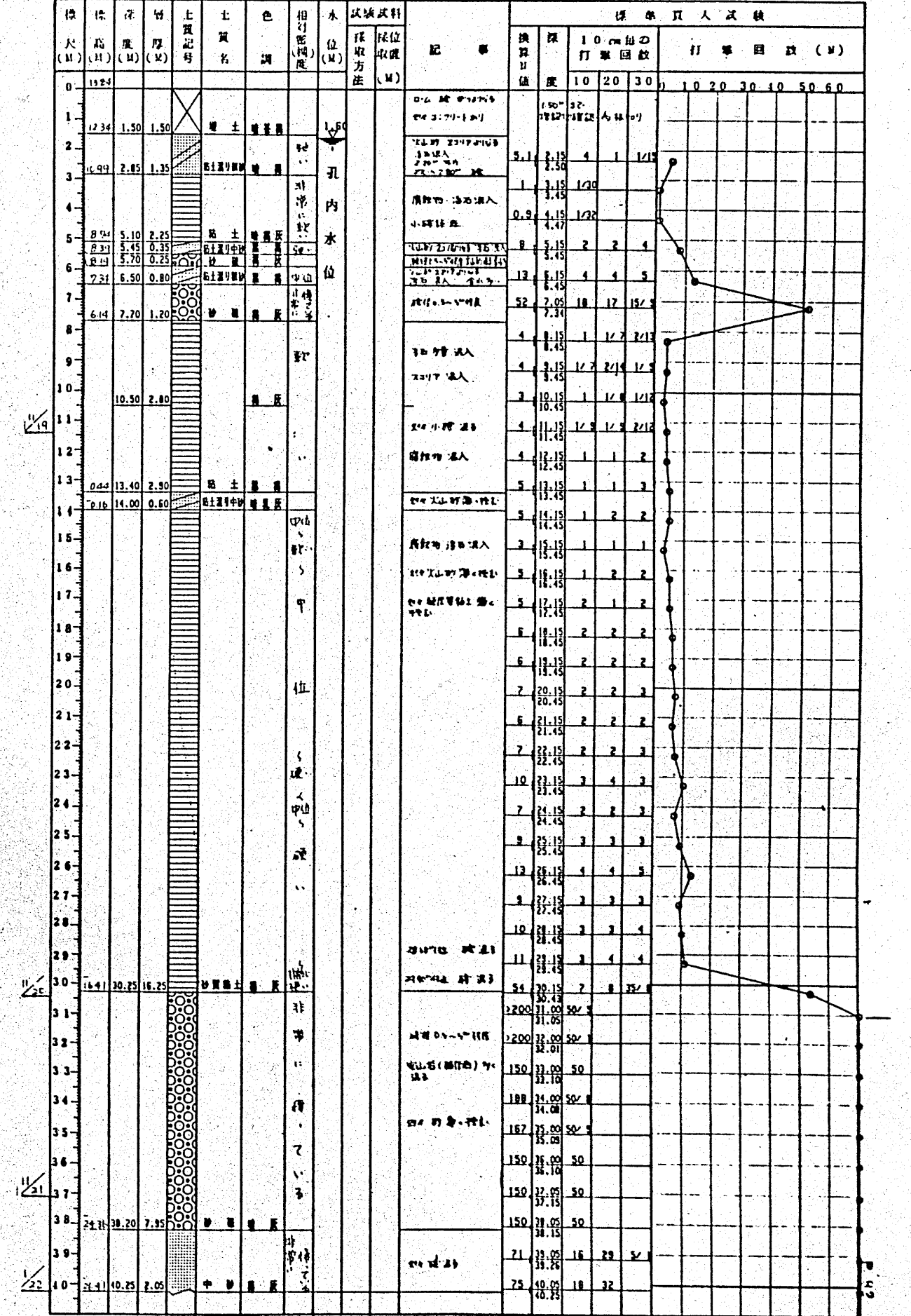


土質柱狀面圖

[illegible]

土質柱狀断面図

町	6	小田原市立病院建設工事工事費	延	6	元
調査年度	昭和15年度	町	6	元	
調査年度	昭和15年度	町	6	元	
調査年度	昭和15年度	町	6	元	
調査年度	昭和15年度	町	6	元	

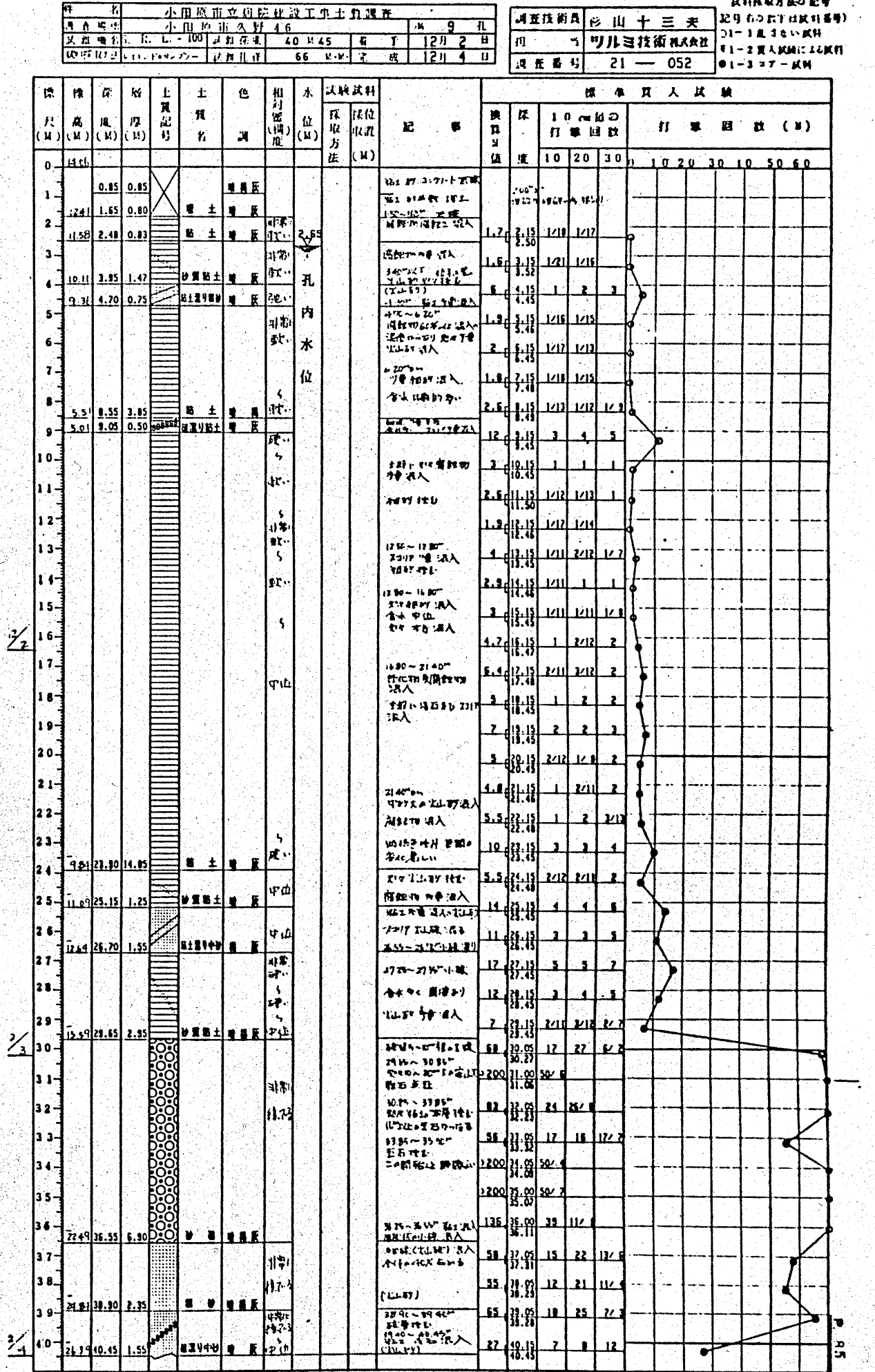
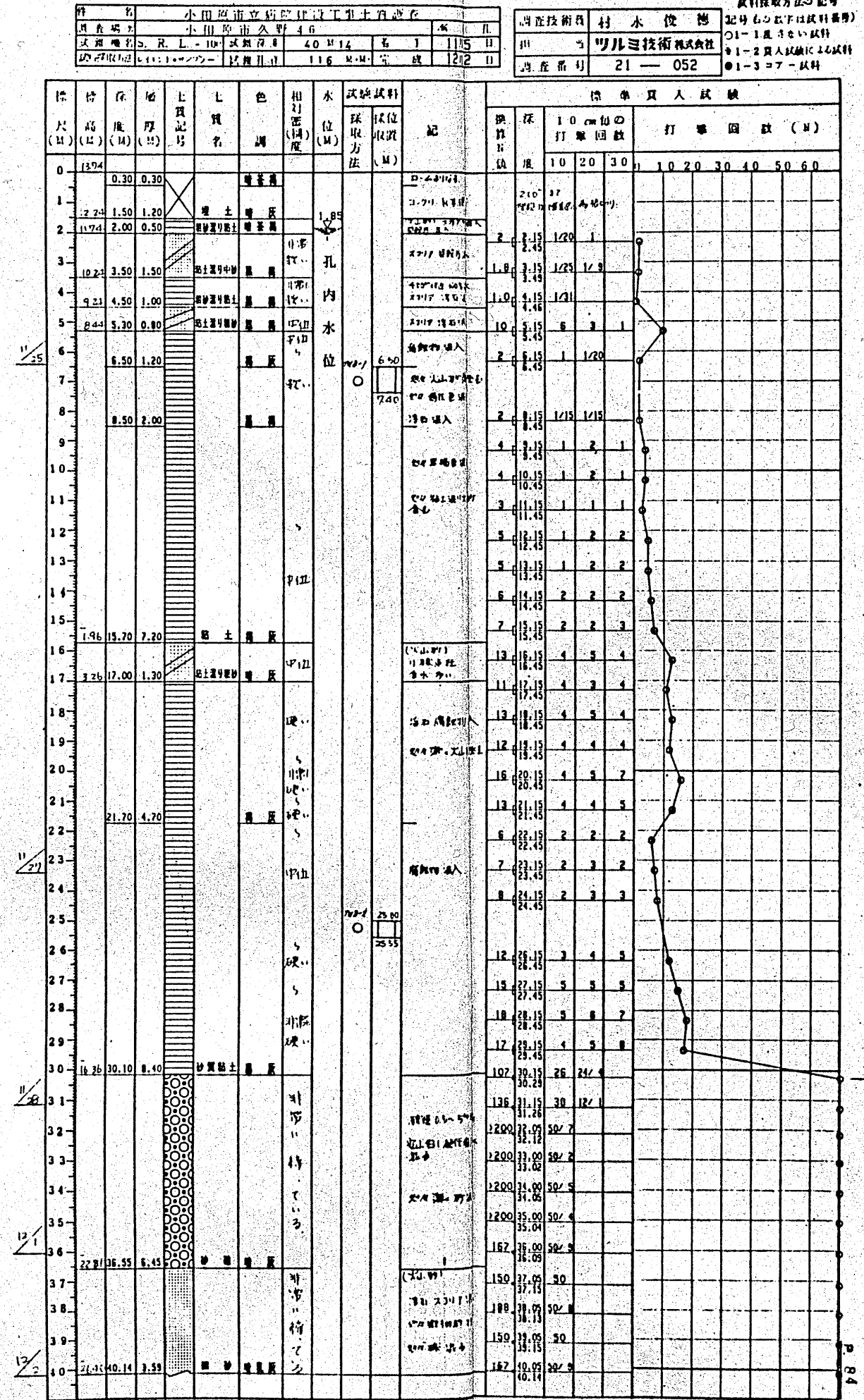
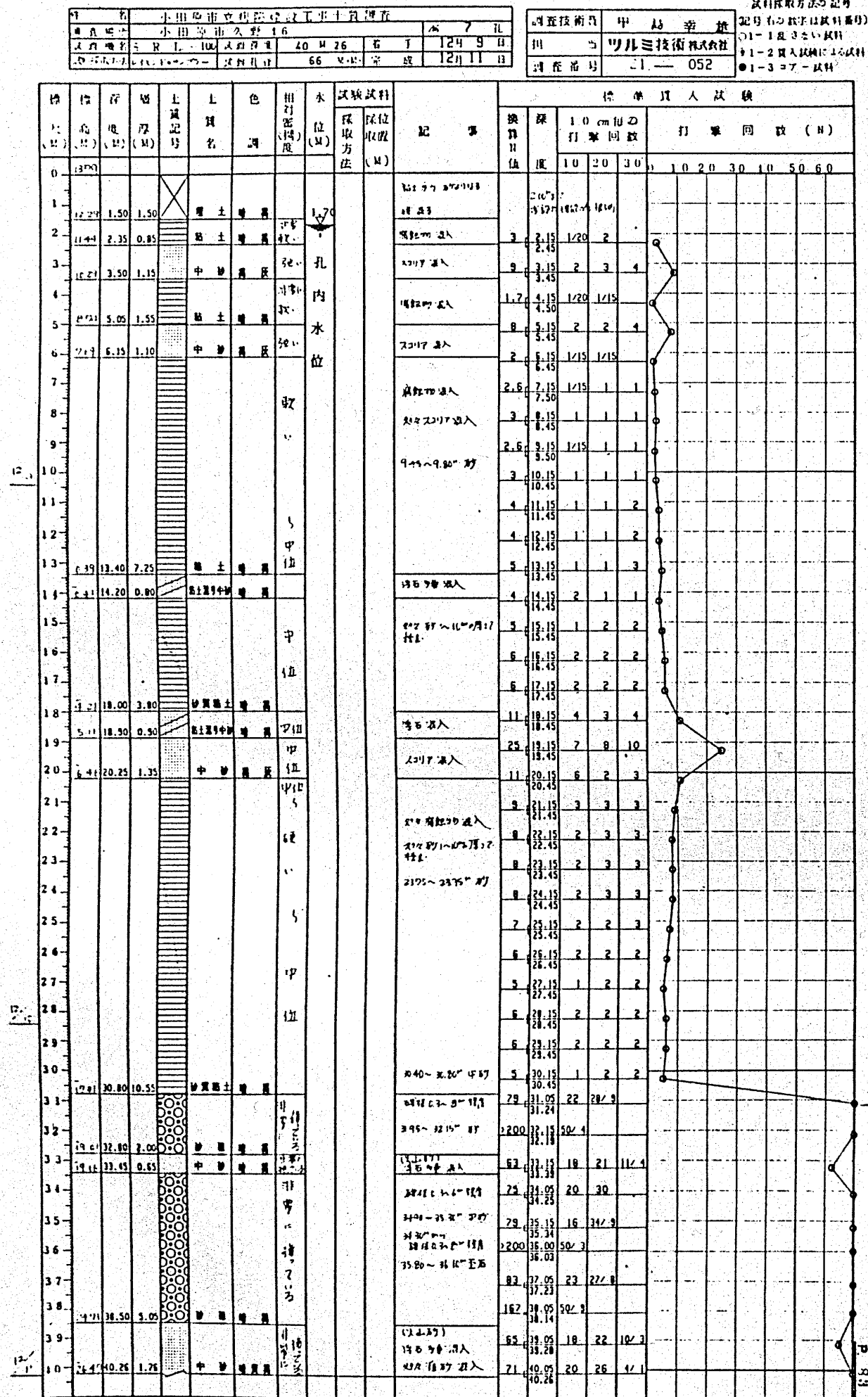


3 期 工 事
来 診 療 棟

土質柱状断面図

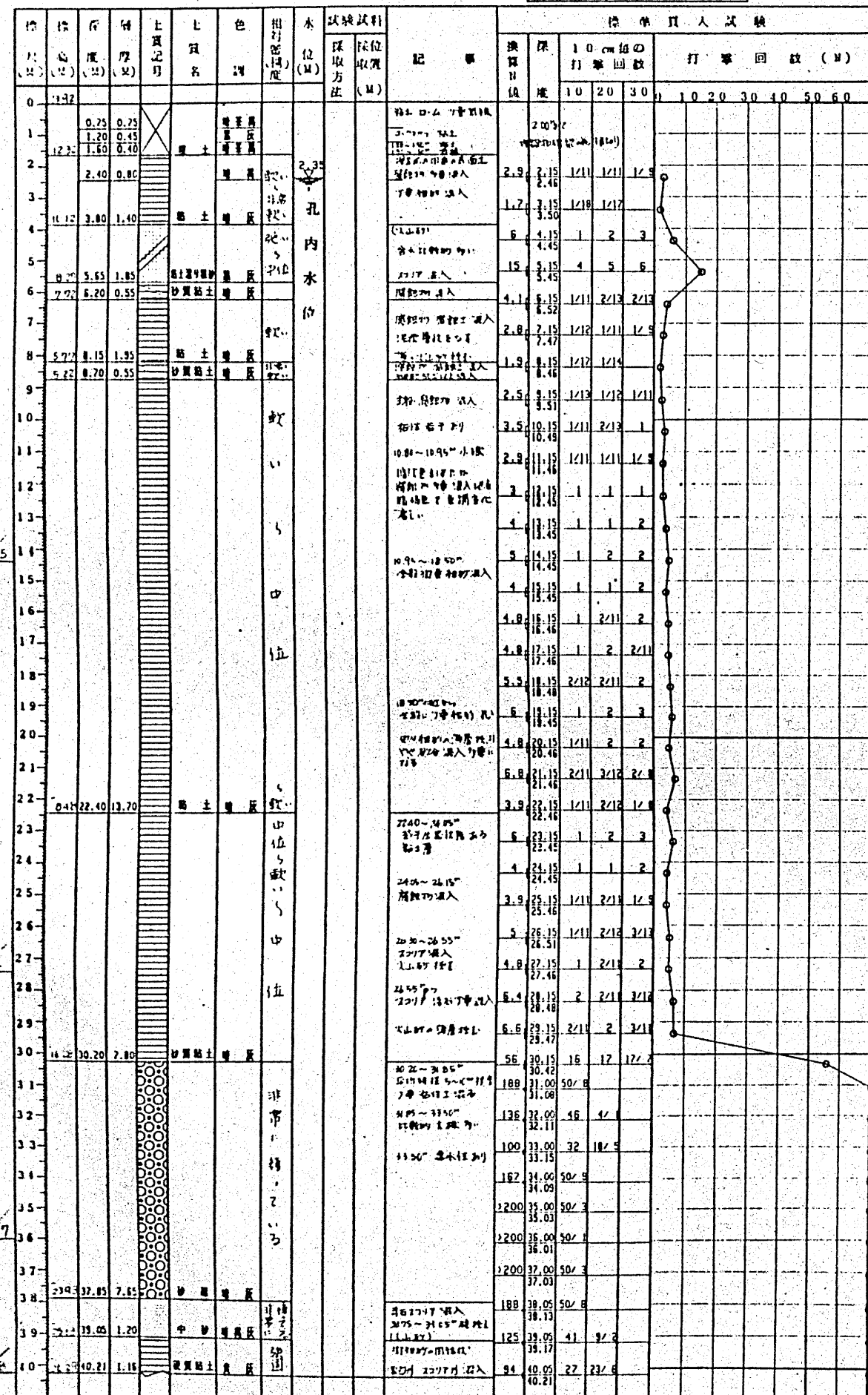
土質柱状断面図

土質柱状断面図



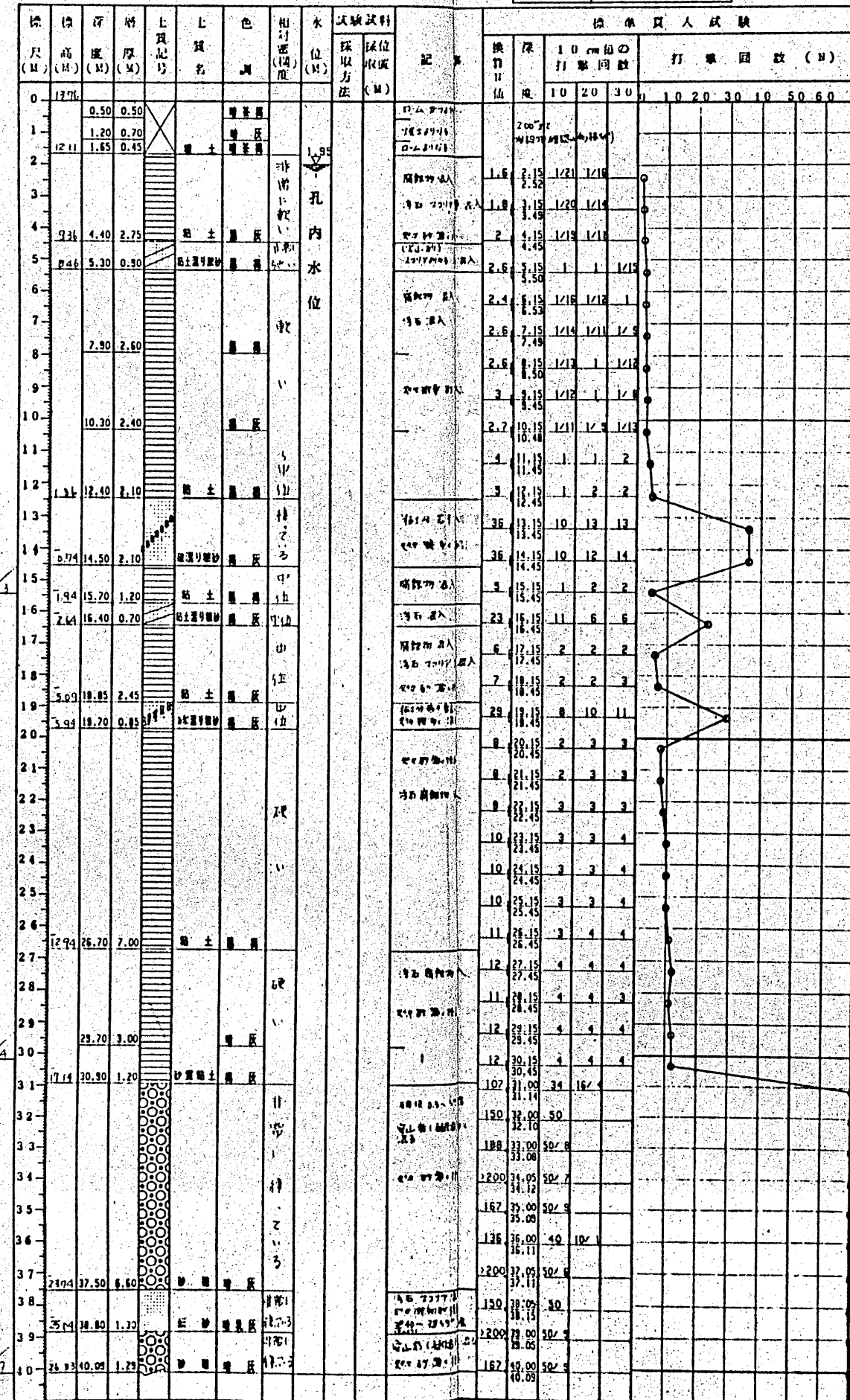
土質柱狀断面図

姓名	小田市立病院 3 年 1 組 1 班 1 組	調査番号	21-052
年齢	16	調査日時	12月 5 日
性別	男	調査場所	小田市立病院
職業	学生	調査者	小田市立病院 3 年 1 組 1 班 1 組
調査内容	小田市立病院 3 年 1 組 1 班 1 組	調査結果	小田市立病院 3 年 1 組 1 班 1 組

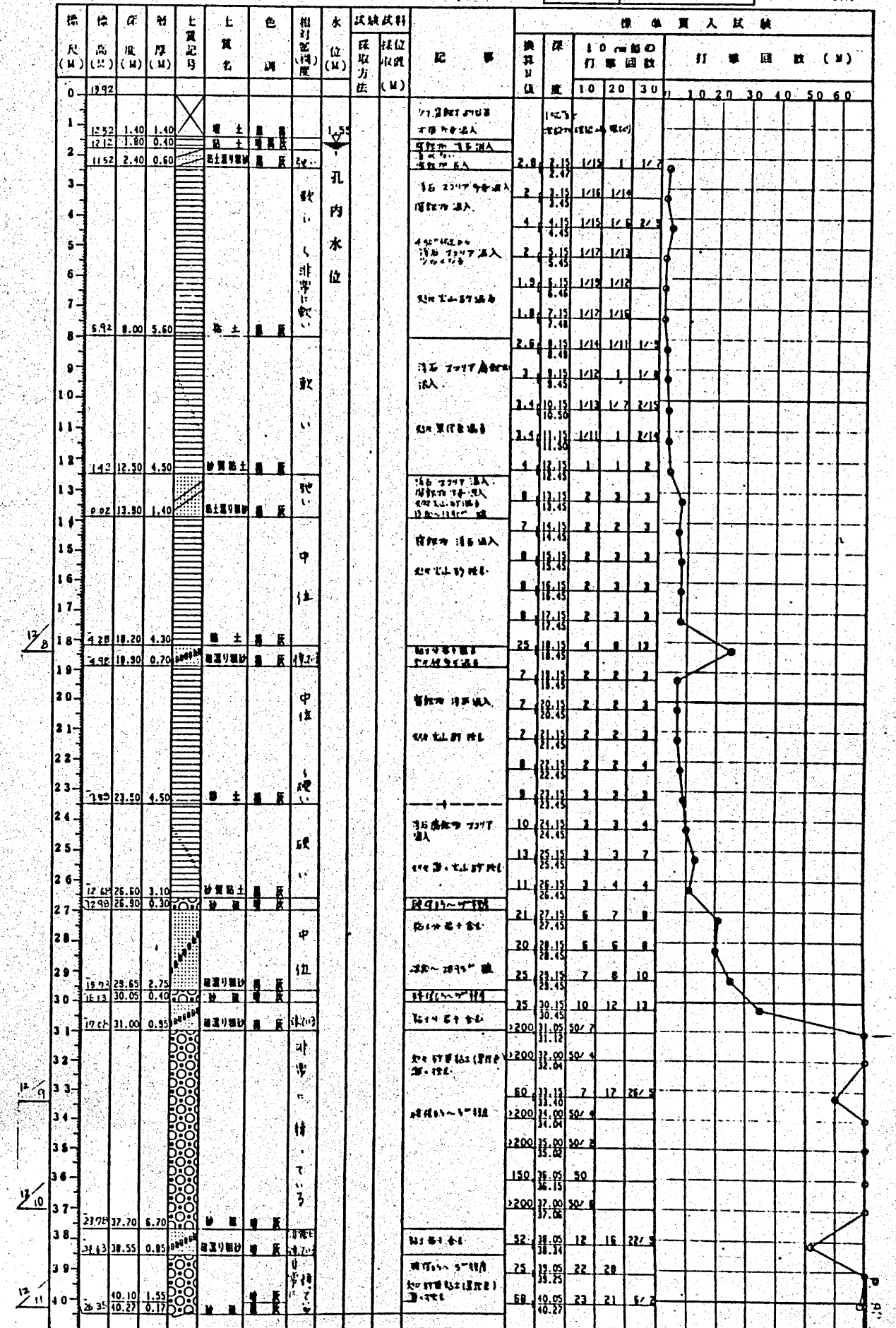


土質柱狀断面図

姓 名	小田 隆雄				調査機関	村 水 俊 彦	
調査年	昭和 46	調査月	4	調査日	11	記号	昭46年4月11日調査
調査地	R. L. W. 25	調査地	40 59	調査地	12 3	調査地	1-1 1号
調査地	66	調査地	66	調査地	66	調査地	1-1 2号
調査地	66	調査地	66	調査地	66	調査地	1-1 3号



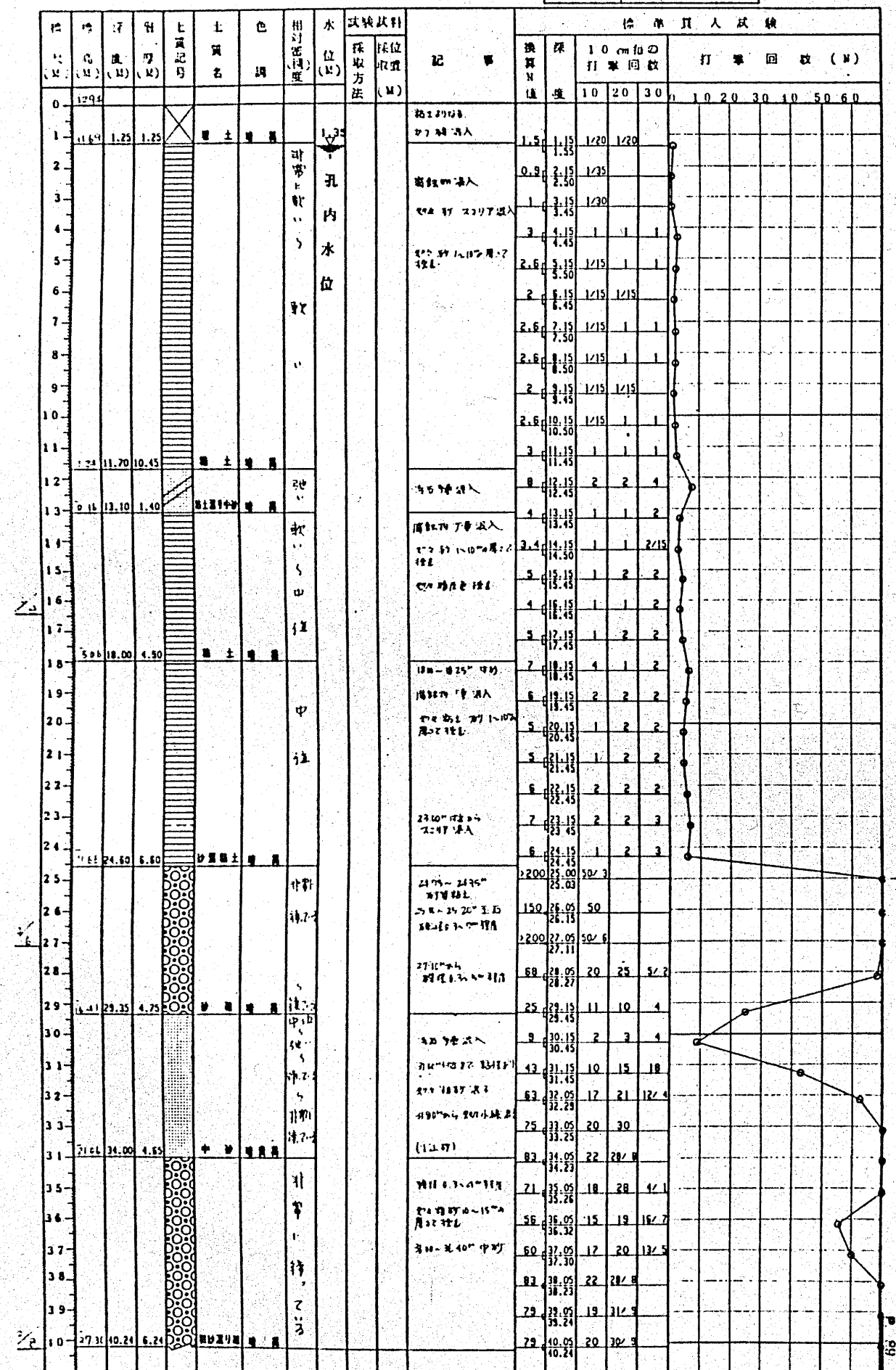
土質柱狀断面図

[illegible]

土質柱状断面図

図名	小田原市立病院建設工事土質調査	図号	13
調査地	小田原市久野 46	調査日	12月 4 日
調査者	佐々木 誠	調査員	佐々木 誠
調査方法	12月 11 日	調査員	佐々木 誠

調査方法	中 島 幸 助	調査員	佐々木 誠
調査員	ワイルド技術株式会社	調査員	佐々木 誠
調査員	21-052	調査員	佐々木 誠

第3期工事
外来診療棟

建設事務局

局長 係長 係員

局長 係長 係員

小田原市立病院建設

土質柱状図 - 7

株式会社 伊藤三郎建築研究所

工事設計図

1:100

1:100

1:100

図面番号

図面番号

図面番号

図面番号

一般共通事項

鉄筋の表示記号
鉄筋の表示記号は下図の記号による。

丸	角	9	13	16	19	22	25	28	32
丸	角	9	13	16	19	22	25	28	32
丸	角	9	13	16	19	22	25	28	32
丸	角	9	13	16	19	22	25	28	32

(注) 本表中の丸角表示の鉄筋は角鉄筋を使用する場合は、上図の区分にしたがう。

鉄筋の折曲げ
本表は

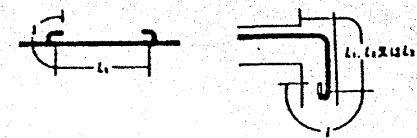
曲げ 内径	折曲げ 半径	すべてのコンクリート SH24, SH24, SH24, SD30, SD35	使用場所
180°	D	3.4以上	18. 18以上の鉄筋は、 16mm以上の鉄筋は、 16mm以上の鉄筋は、
135°	D	3.4以上	18. 18以上の鉄筋は、 16mm以上の鉄筋は、 16mm以上の鉄筋は、
90°	D	3.4以上	18. 18以上の鉄筋は、 16mm以上の鉄筋は、 16mm以上の鉄筋は、
135°	D	3.4以上	18. 18以上の鉄筋は、 16mm以上の鉄筋は、 16mm以上の鉄筋は、

(注) 1. Dは、曲げの内径
2. 1及び1.5は、フック部分の長さ

鉄筋の水平及び垂直の長さ

鉄筋の 種類	設計基準 強度 F _y (N/mm ²)	フックなし	フックあり
SH24	210以上	—	20d
SH24	210以上	—	20d
SD30	210以上	—	20d
SD35	210以上	—	20d
SD40	210以上	—	20d

1. 鉄筋の水平及び垂直の長さ。
2. 鉄筋の水平及び垂直の長さ。
3. 鉄筋の水平及び垂直の長さ。
4. フックのある場合、L₁及びL₂は、下図に示すようにフック部分(1)を含む。



コンクリートの設計基準強度(F_y)が180N/mm²の場合、L₁及びL₂は、図の値に1.5倍したものを、L₁は、図の値とする。

鉄筋(溶接金具を含む)の最小折曲げ半径(=)

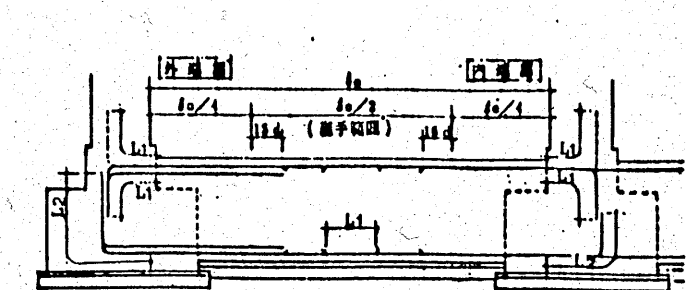
鉄筋の 種類	鉄筋の 種類	鉄筋の 種類	鉄筋の 種類	鉄筋の 種類
丸	角	丸	角	丸
丸	角	丸	角	丸
丸	角	丸	角	丸
丸	角	丸	角	丸

1. ()内は鉄筋コンクリートの1種又は2種に適用する。
2. 仕上げありとは、モルタル塗りなどの仕上げのあるものを、仕上げなしとは、モルタル塗りなどの仕上げのないものを指す。
3. 鉄筋コンクリート構造で、鉄筋に接する部分のコンクリートは、鉄筋コンクリートの厚さを要しない。
4. 鉄筋を金具で使用する場合は、金具の厚さを要しない。

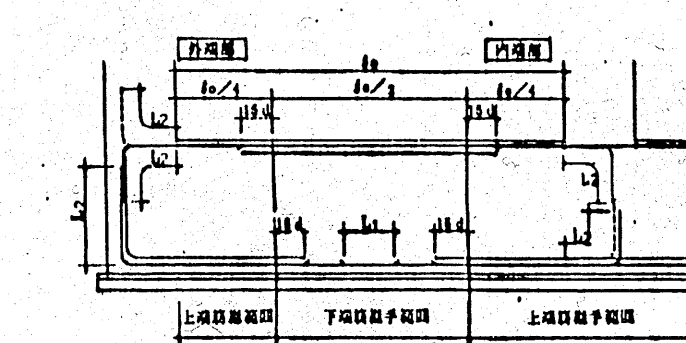
地中ばり

地中ばり部の断面及び位置

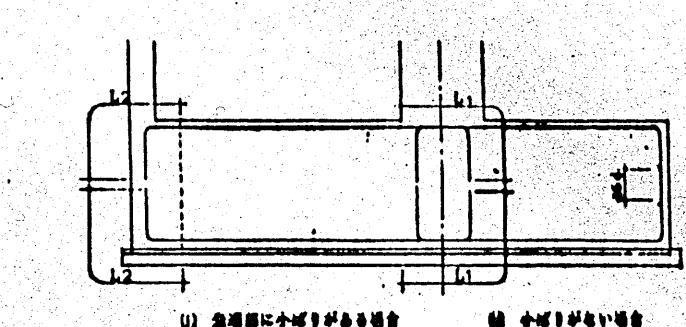
1. 独立基礎の場合(つぎの通り)



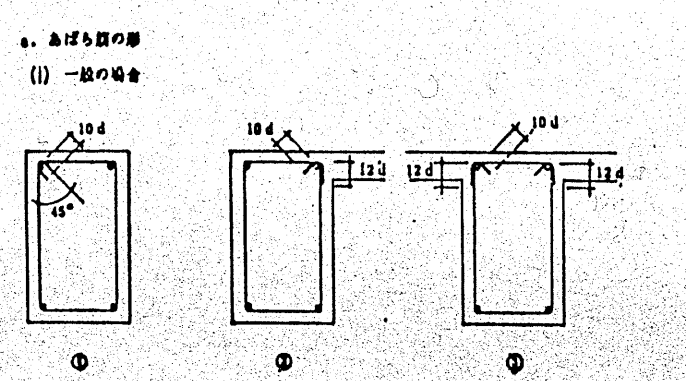
2. 連続基礎、べた基礎の場合



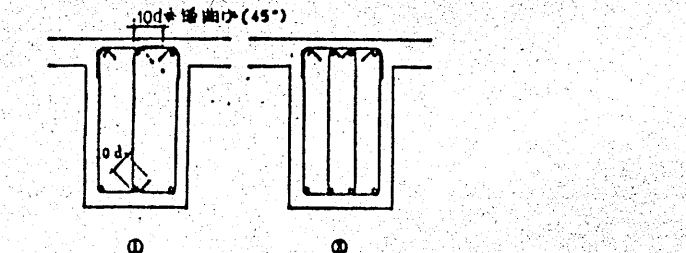
3. 片持りの場合



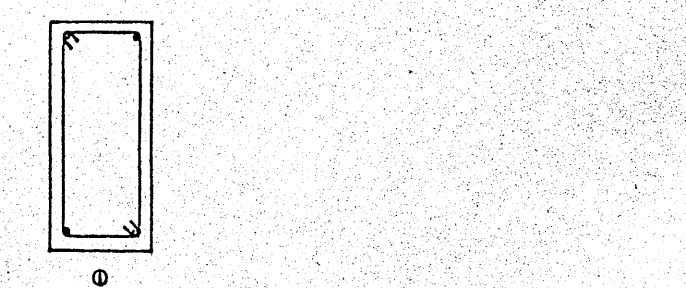
4. あばら筋、断面及び位置



5. あばら筋の形

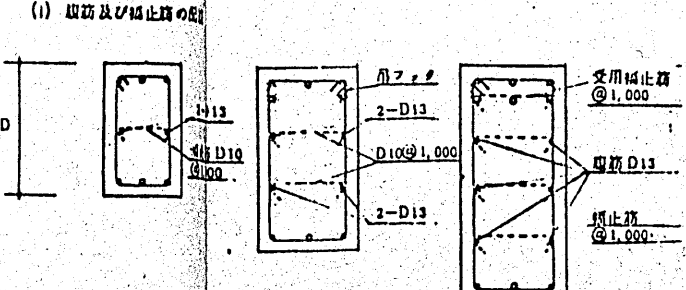


6. あばら筋の位置が特に大きい場合



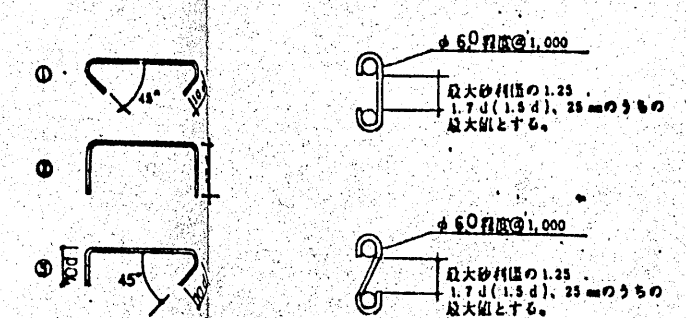
1. あばら筋の形は、原則として①とする。ただし、床スラブがある場合は②に代えて③、T型スラブの場合は④に代えて⑤とする。
2. あばら筋のフックの位置は、①にあっては交互とし、②にあっては床スラブ側とする。
3. あばら筋のフックの位置は、原則として上端とする。
4. 工法が多い場合は、フック等が支持金具となり、2〜3mm程度の支持を受ける。

5. 断面及び位置

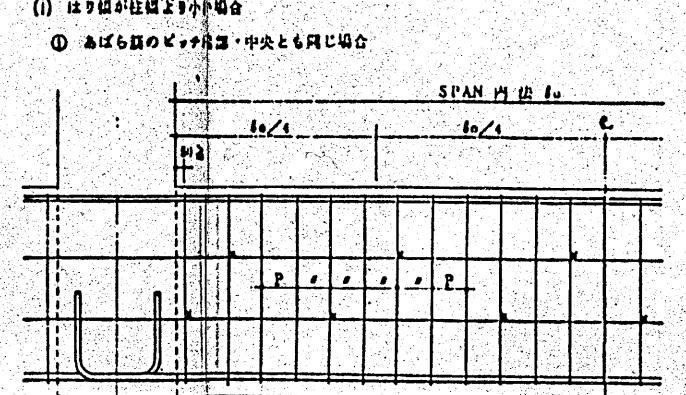


① 600≦D<900 ② 900≦D<1200 ③ 1200≦D<1500
④ 1500<D<2000 ⑤ 2000<D<2500

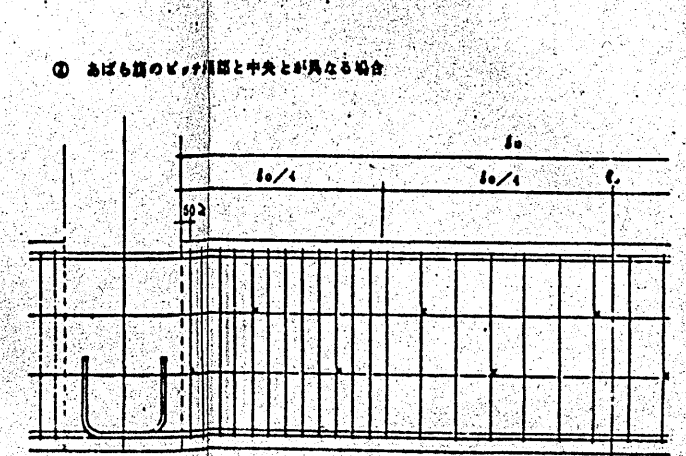
6. 断面及び位置(鉄筋保持金具)の形



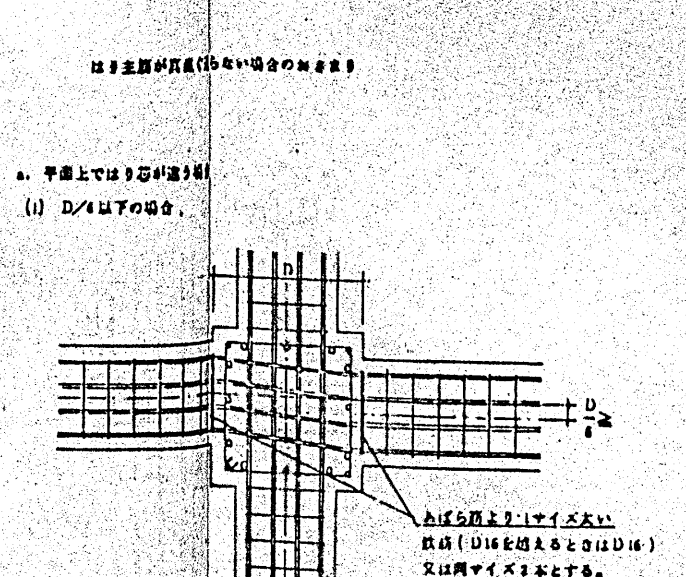
7. あばら筋の位置



8. あばら筋の位置が特に大きい場合

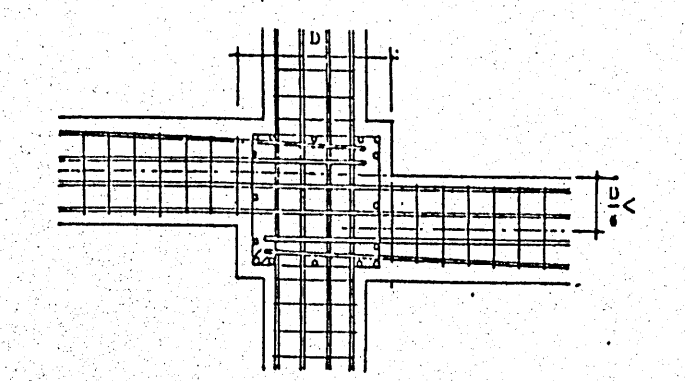


9. あばら筋の位置が特に大きい場合



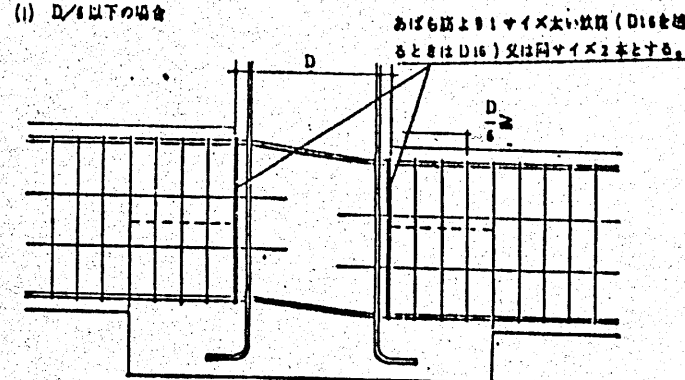
1. あばら筋の形は、原則として①とする。ただし、床スラブがある場合は②に代えて③、T型スラブの場合は④に代えて⑤とする。
2. あばら筋のフックの位置は、①にあっては交互とし、②にあっては床スラブ側とする。
3. あばら筋のフックの位置は、原則として上端とする。
4. 工法が多い場合は、フック等が支持金具となり、2〜3mm程度の支持を受ける。

10. D/8を超える場合

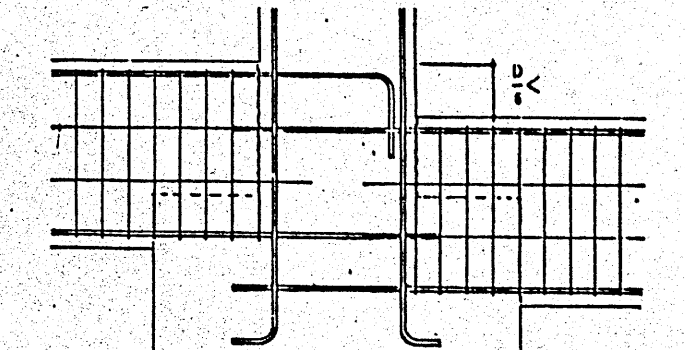


1. 主筋の折曲げがD/8以下であっても、斜めにアンカーしてもよい。
2. (1)の場合であっても、折曲げがゆるい場合は、通し配筋としてもよい。
3. 主筋を折曲げて通し配筋とする場合は、柱より内側にあばら筋より1ヤイ太い鉄筋(D16)を2本とあばら筋(D16)又は同ヤイ3本とする。

11. 断面及び位置

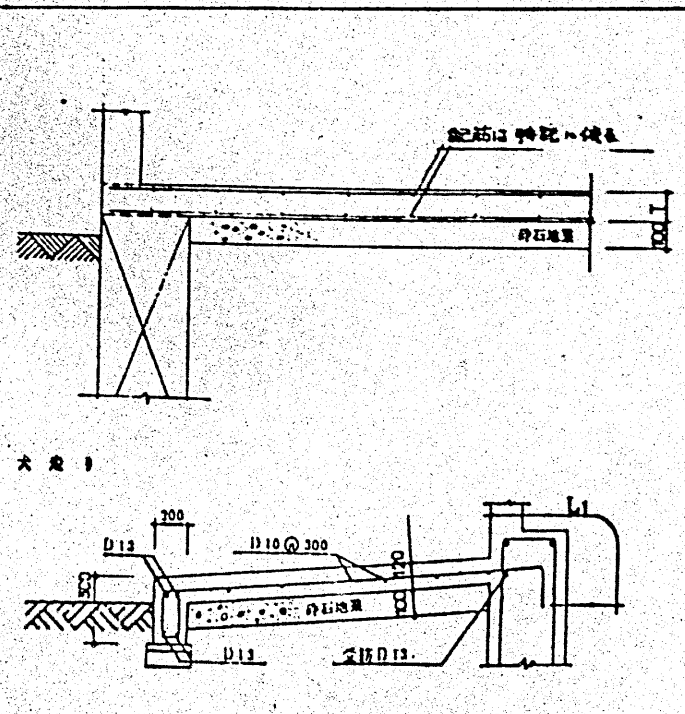


12. D/8を超える場合



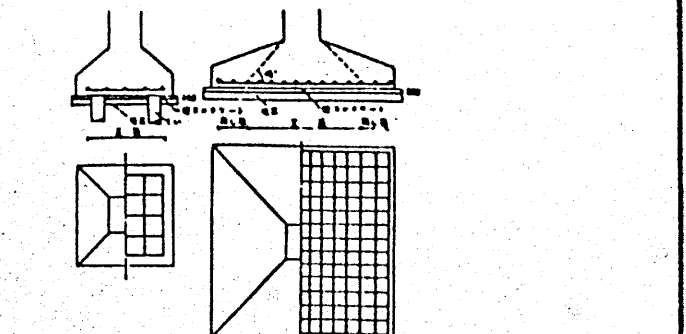
1. 主筋の折曲げがD/8以下であっても、斜めにアンカーしてもよい。
2. 主筋を折曲げて通し配筋とする場合は、柱より内側にあばら筋より1ヤイ太い鉄筋(D16)を2本とあばら筋(D16)又は同ヤイ3本とする。
3. 主筋が折曲がらず、断面及び位置は原則として、斜めにアンカーする。

土間コンクリート



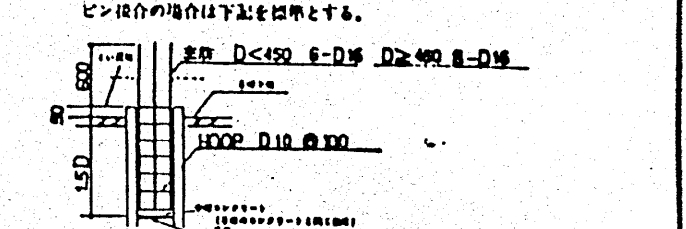
基礎

基礎の断面とコンクリート



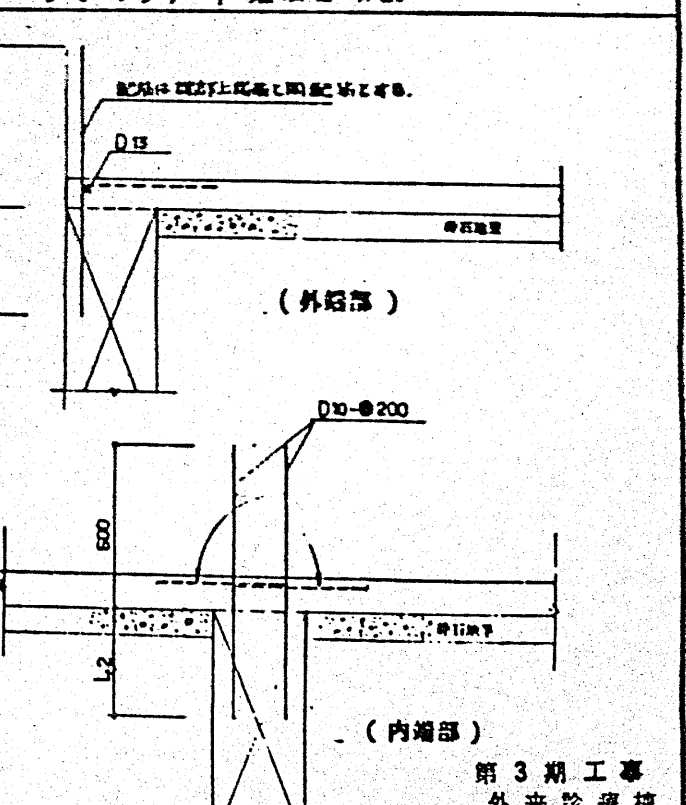
1. 基礎コンクリートの厚さは600mmとする。
2. 基礎の断面及び位置は、柱より内側にあばら筋より1ヤイ太い鉄筋(D16)を2本とあばら筋(D16)又は同ヤイ3本とする。

13. 基礎の断面



1. 基礎コンクリートの厚さは、柱より内側にあばら筋より1ヤイ太い鉄筋(D16)を2本とあばら筋(D16)又は同ヤイ3本とする。
2. 基礎の断面及び位置は、柱より内側にあばら筋より1ヤイ太い鉄筋(D16)を2本とあばら筋(D16)又は同ヤイ3本とする。

土間コンクリート 基礎部断面



第3期工事
外來診療棟

建設事務局

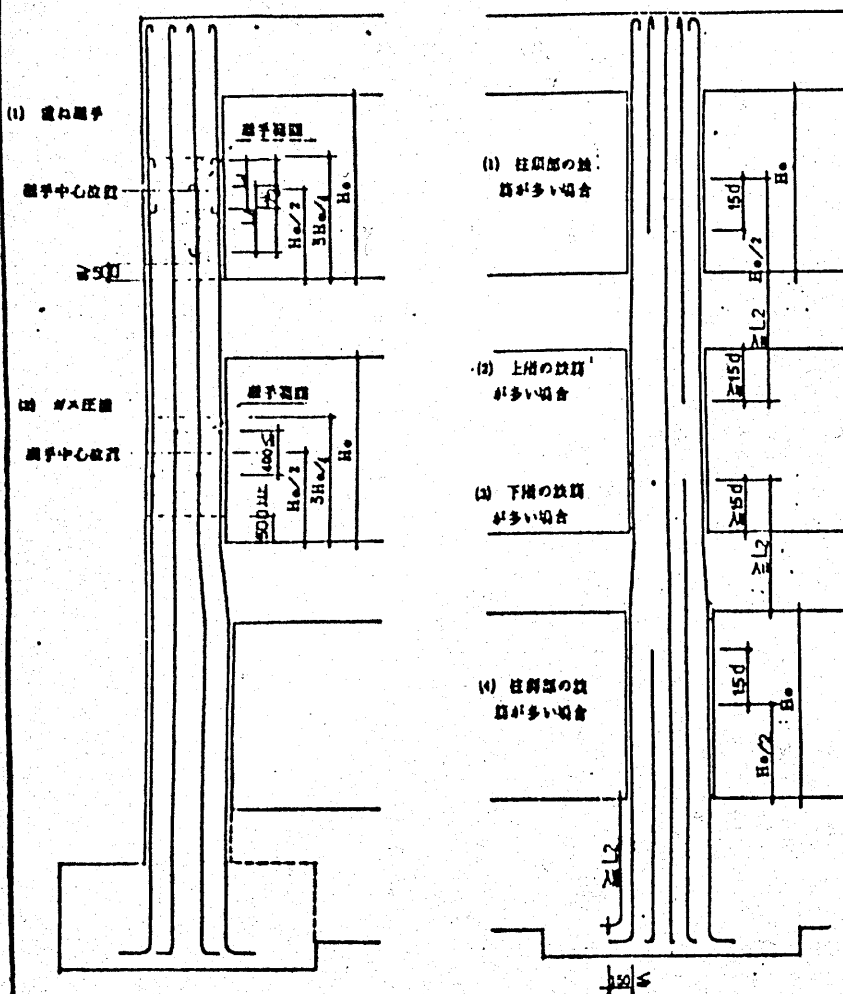
局長	係長	係員
局長	係長	係員
局長	係長	係員

図面番号	設計番号	作成	年月日	図面番号
図面番号	設計番号	作成	年月日	図面番号
図面番号	設計番号	作成	年月日	図面番号

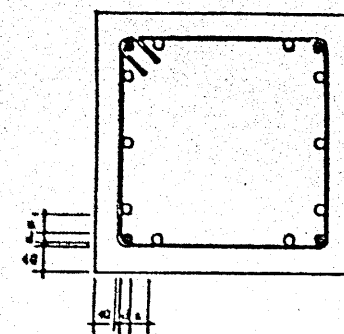
株式会社 伊藤喜三郎建築研究所

柱の配筋と定着

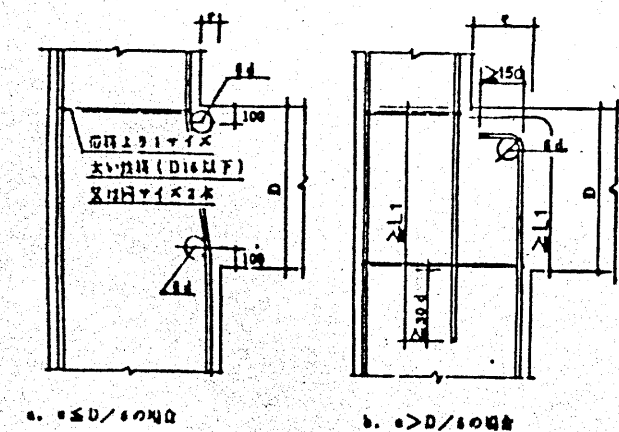
定着



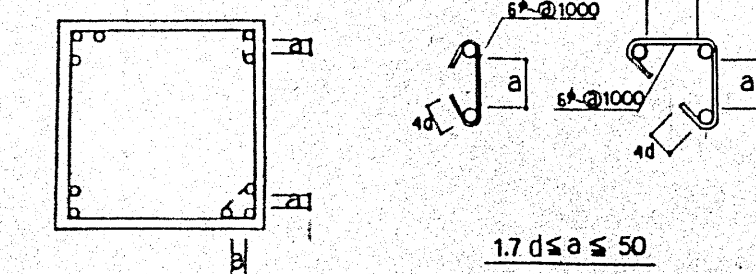
定着の位置



定着の長さ



二筋筋の保持



定着の位置

定着の位置

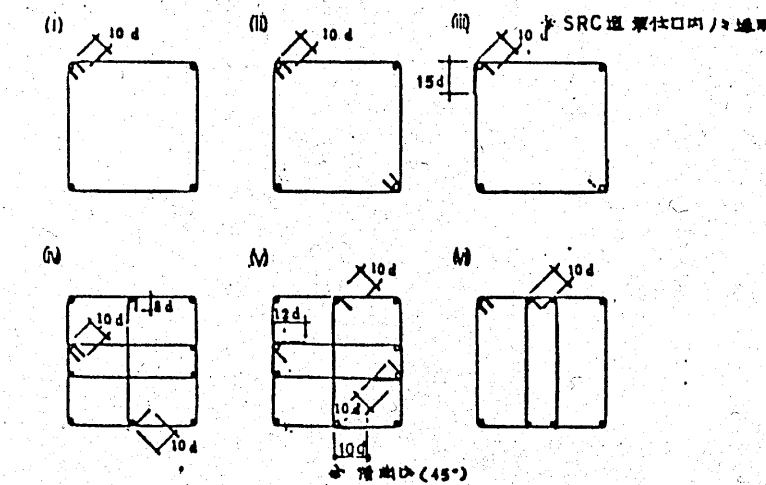
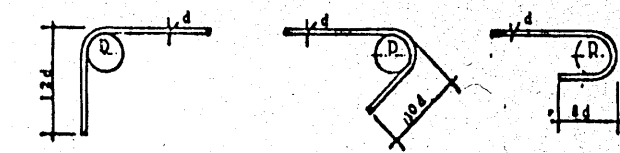


図 1. フックおよび定着の位置は、交互とする。
2. 余長のはかり方は、下記による。



定着の位置

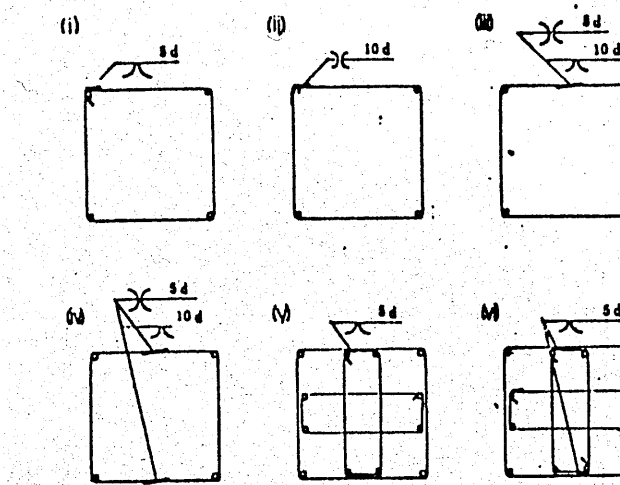


図 1. 定着の位置は、主筋の位置を避ける。
2. 定着の位置は、交互とする。
3. 定着の位置は、下記による。



定着の位置

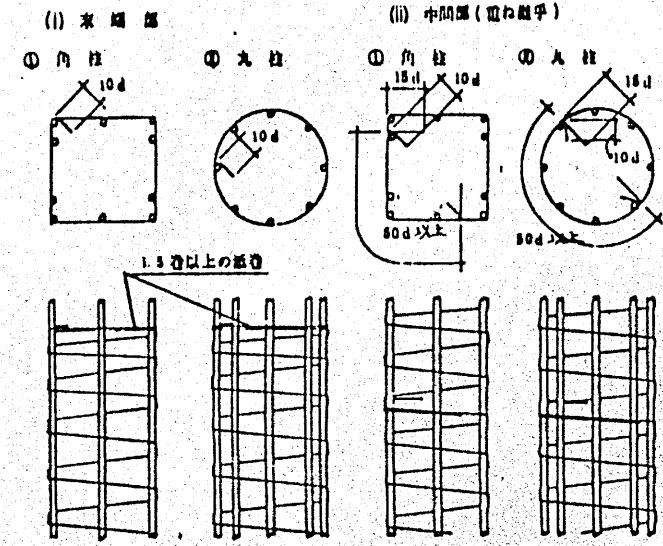


図 1. 定着の位置は、1.5 倍以上とする。
2. 定着の位置は、50 d 以上とする。

定着の位置

定着の位置

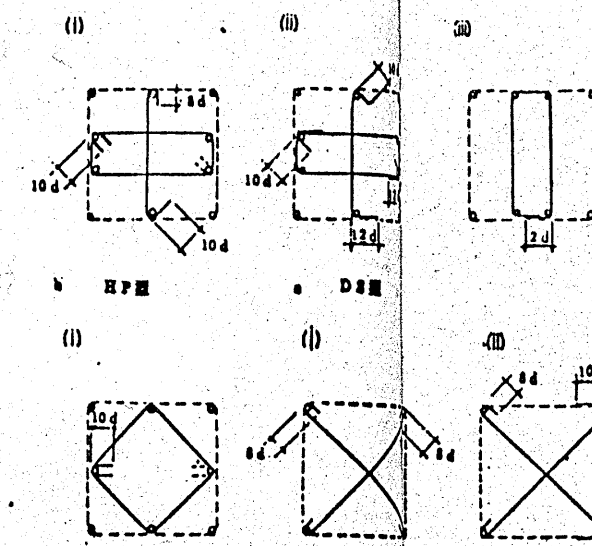
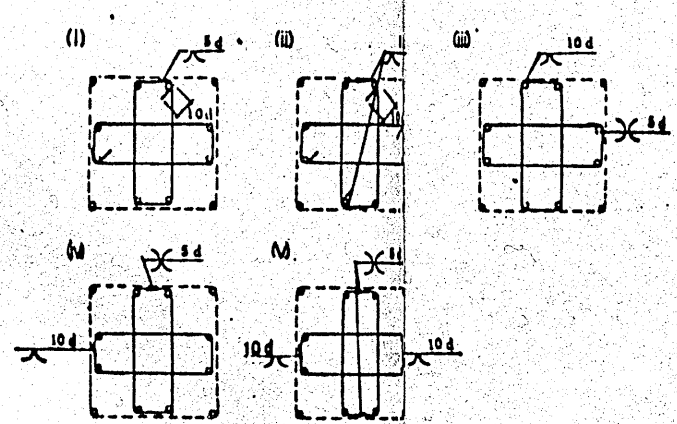
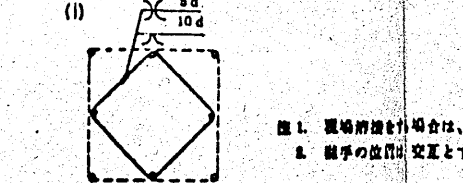


図 1. フックおよび定着の位置は、交互とする。

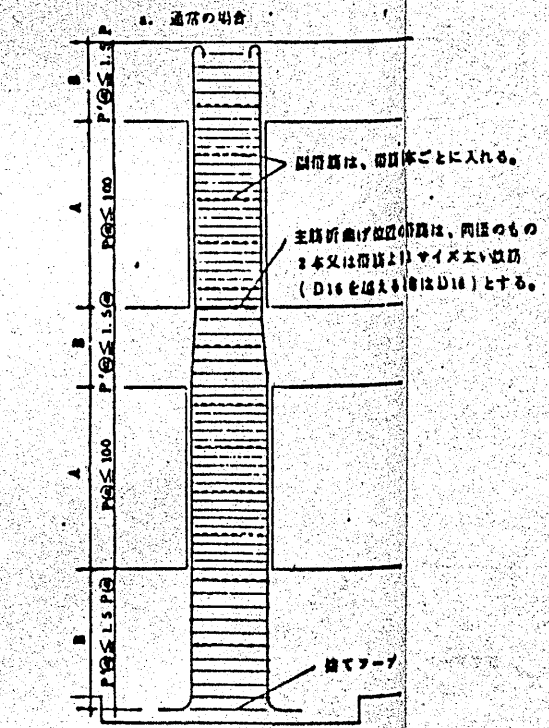
定着の位置



定着の位置



定着の位置

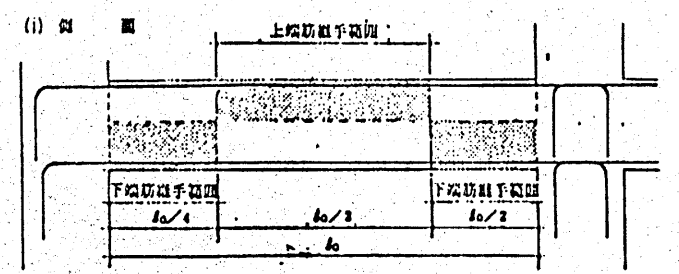


大ばり筋の配筋と定着

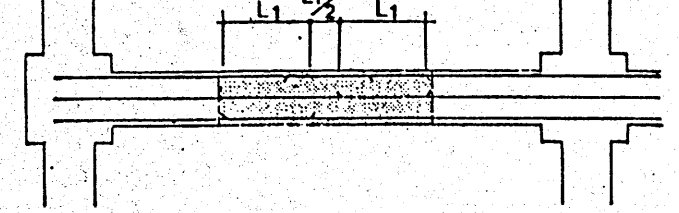
定着

定着の位置

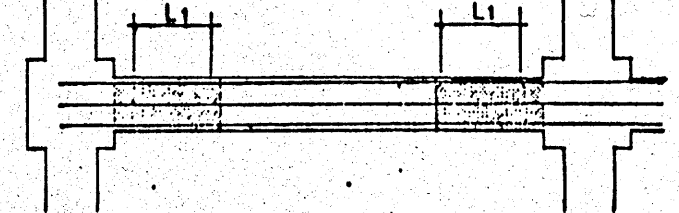
定着の位置



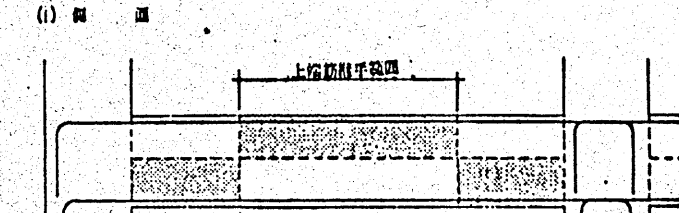
定着の位置



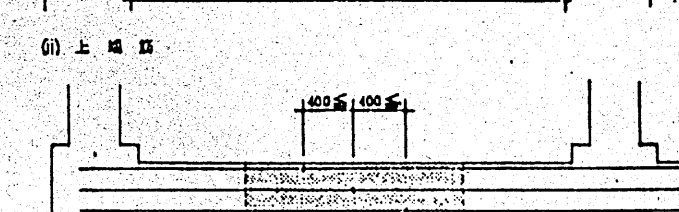
定着の位置



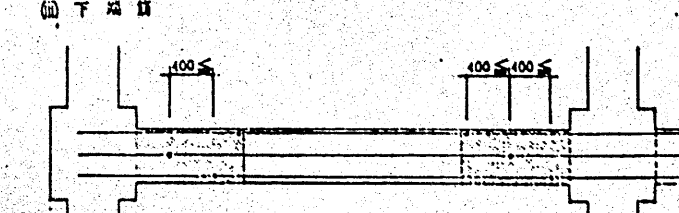
定着の位置



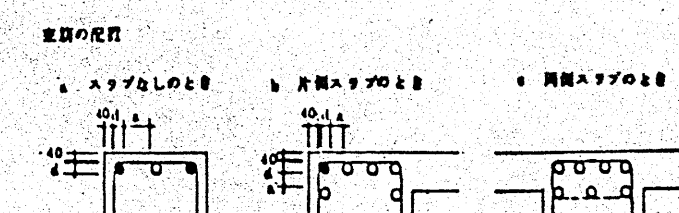
定着の位置



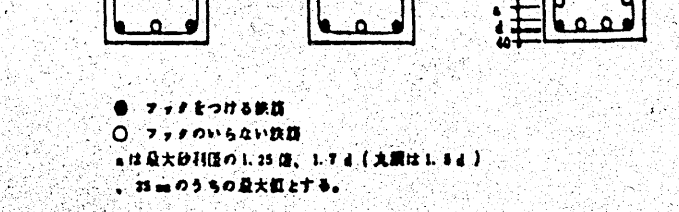
定着の位置



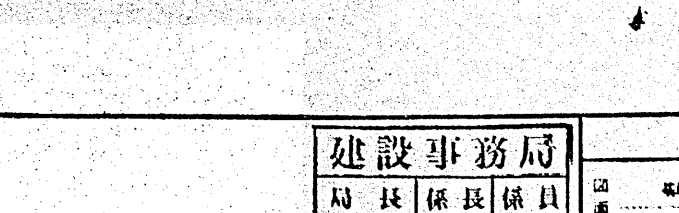
定着の位置



定着の位置



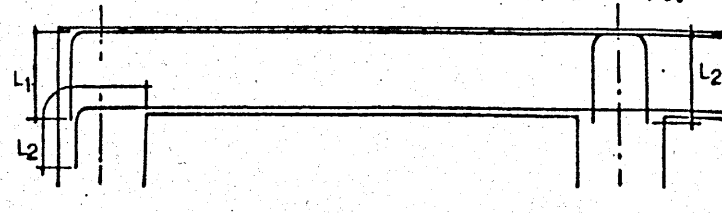
定着の位置



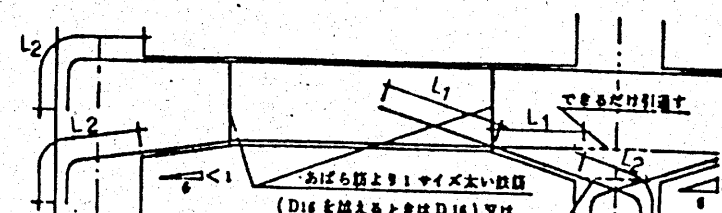
定着

定着の位置

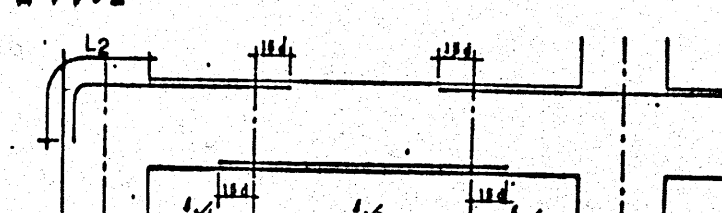
定着の位置



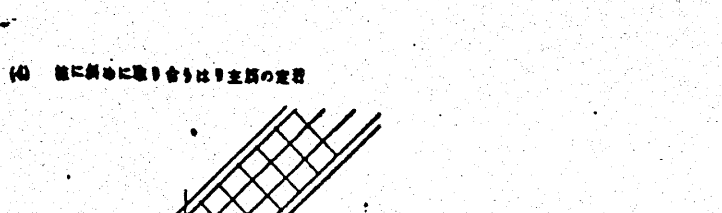
定着の位置



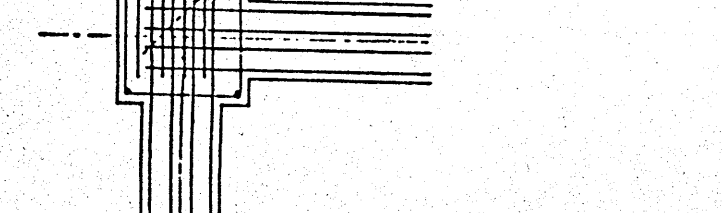
定着の位置



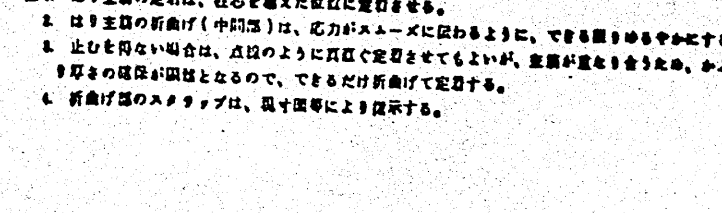
定着の位置



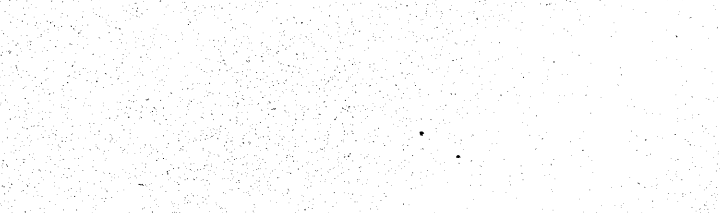
定着の位置



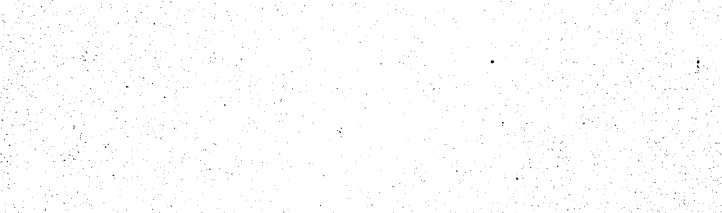
定着の位置



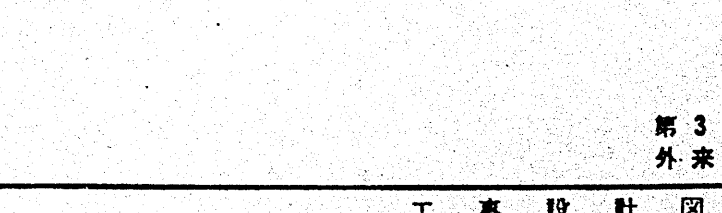
定着の位置



定着の位置



定着の位置



第 3 期工事

外 来 診 療 棟

建設事務局

局長 係長 係員

局長 係長 係員

局長 係長 係員

局長 係長 係員

局長 係長 係員

工事設計図

図面番号

図面番号

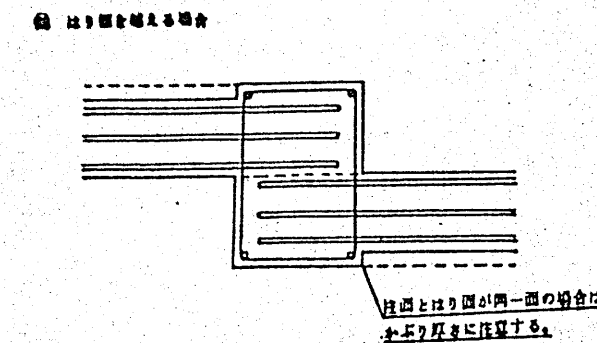
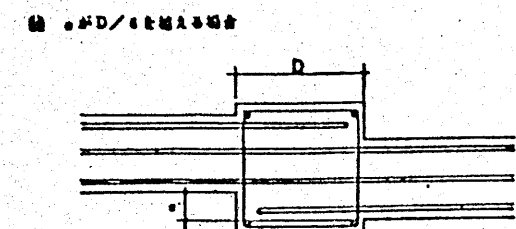
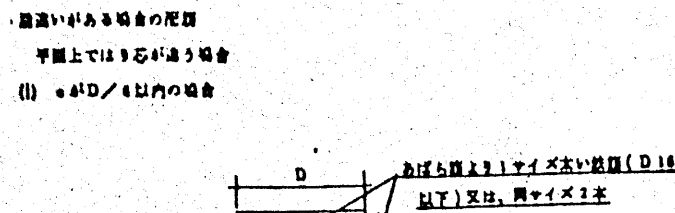
図面番号

図面番号

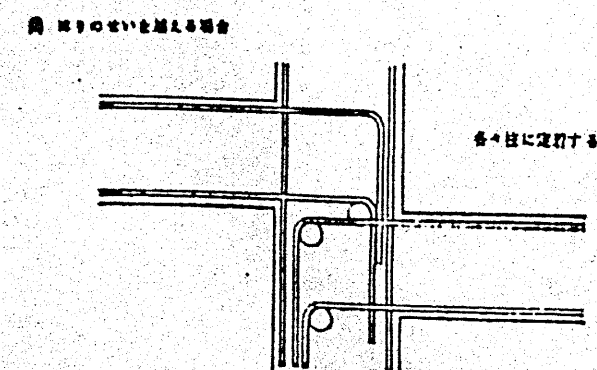
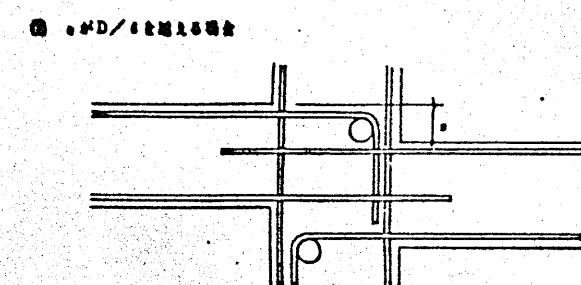
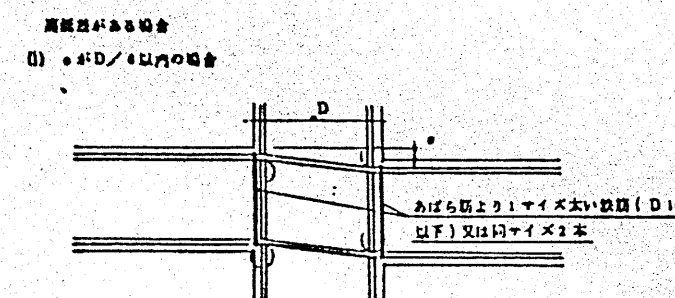
図面番号

図面番号

大ばり

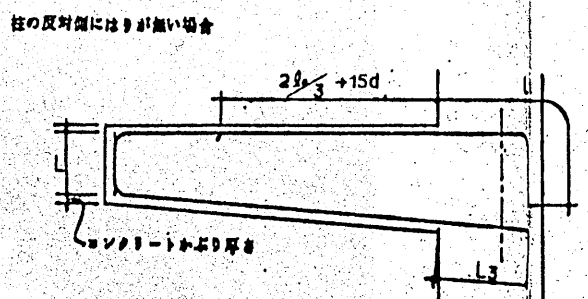
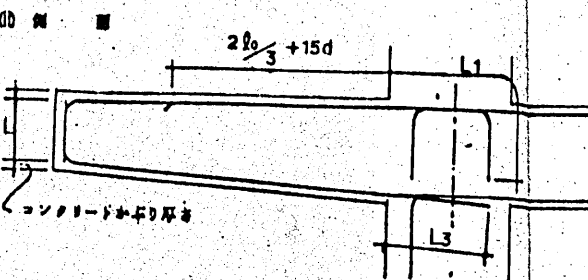
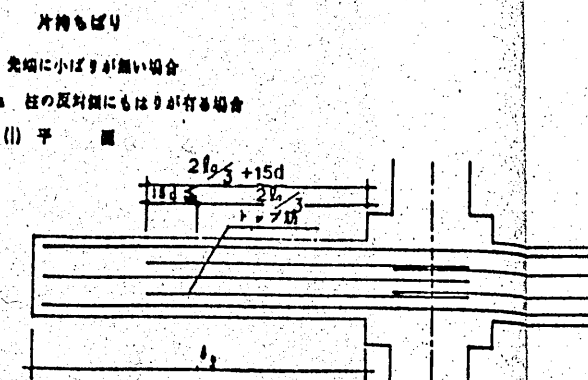


- 図1 主筋の折曲げがD/4以下であっても、例々にアンカーしてもよい。
2. (1)の場合、差し配筋ができるものは、差し配筋としてもよい。
3. 主筋を折曲げて差し配筋とする場合は、柱面より内側にあばら筋より1ヤイズ太い鉄筋(D16と比べるとD18)、又は同ヤイズ2本とする。

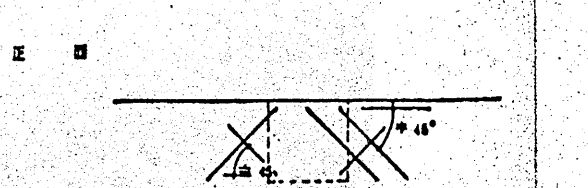
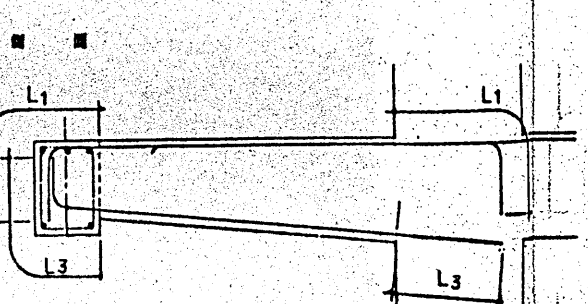
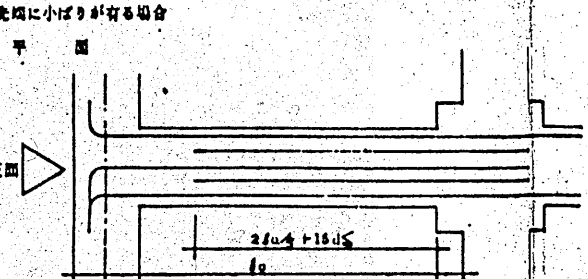


- 図1 主筋の折曲げがD/4以下であっても、例々にアンカーしてもよい。
2. 主筋を折曲げて差し配筋とする場合は、柱面より内側にあばら筋より1ヤイズ太い鉄筋(D16と比べるとD18)、又は同ヤイズ2本とする。
3. はり芯が合う場合で断面図がある場合は、原則として例々にアンカーする。

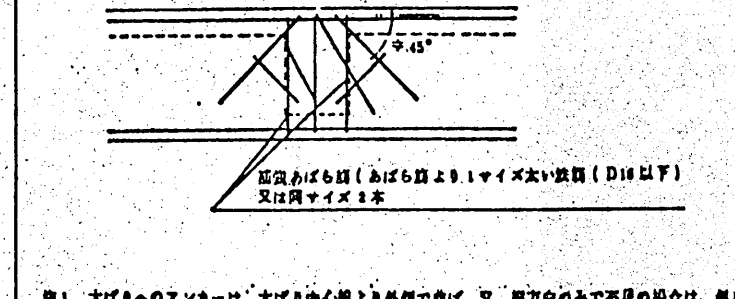
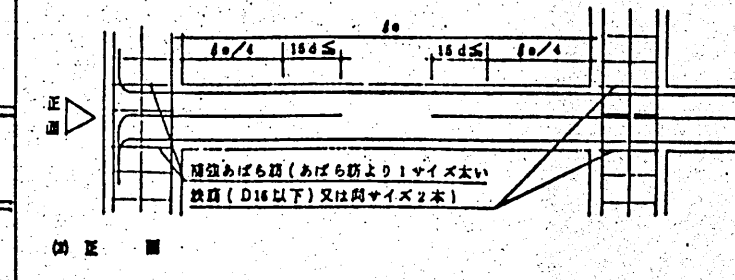
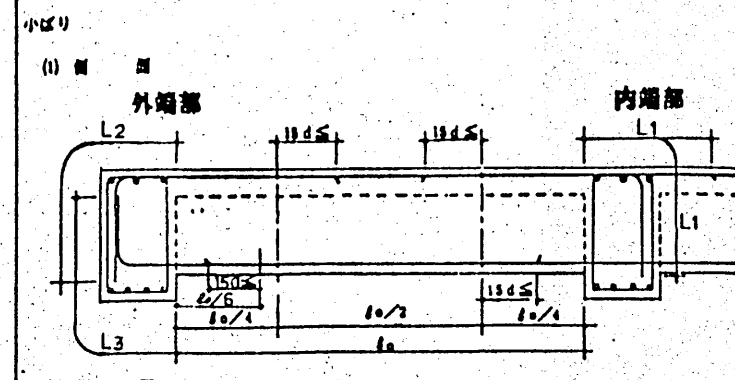
小ばり及び片持ちばり



- 図1 主筋の定着は、柱芯を越え太く配置でアンカーする。
2. 反対側にはりがない場合には、主筋はアンカー又は引出しのやりでもよい。
但し全長引通せる場合でも上端筋は2本以上を柱に定着する



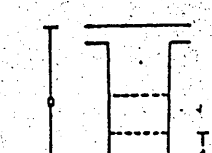
- 小ばりへのアンカーは、小ばり中心より外側で曲げ、又斜め角のみで不足の場合は、斜め角に定着する。



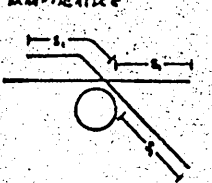
- 図1 大ばりへのアンカーは、大ばり中心より外側で曲げ、又、斜め角のみで不足の場合は、斜め角に定着する。
2. 小ばり取付部のあばら筋を断れないこと。
3. 小ばり主筋のアンカーは、かぶり厚が十分とれる場合を除き、原則として水平アンカーは避けること

はり貫通孔配筋

- 補強事項
1. 孔の径が、はりせい/10以下の場合には補強筋を必要としない。
ただし、孔の径が150以上となる場合は目形標準の補強とする。
2. 孔が円形でない場合は、外周円孔におきかえて各標準配筋を適用する。
3. 孔の上下方向の位置は、はりせいの中心付近と下記による。

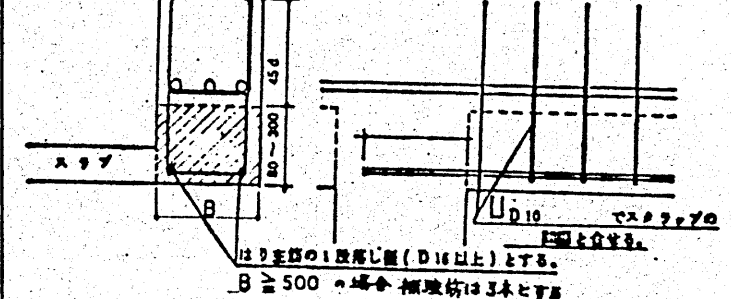
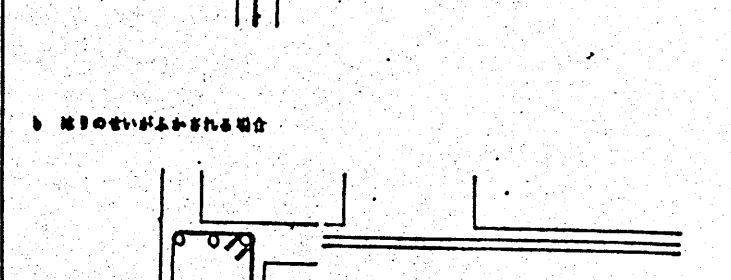
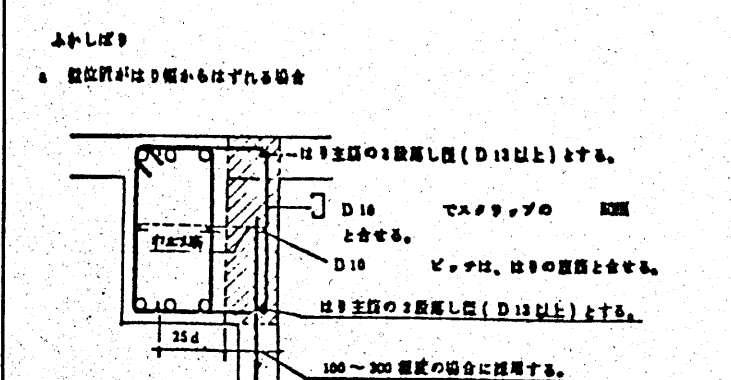
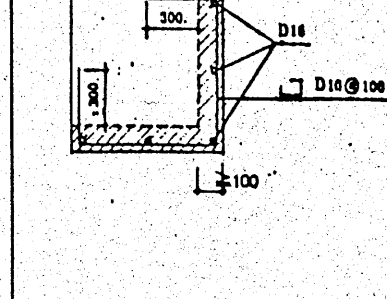
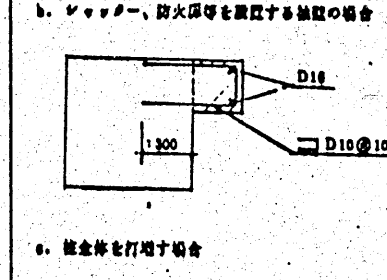
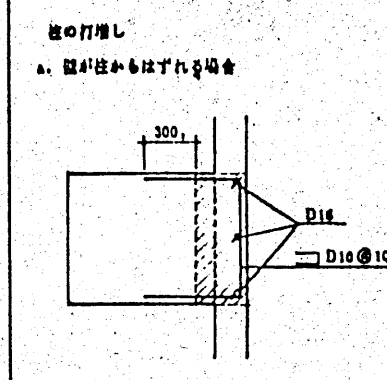


4. 孔の中心位置は柱及び梁の中心より1.8D以上はなすことを原則とする。
5. 孔が斜列する場合は、その中心間隔は孔の径の平均値の3倍以上とする。
6. 補強筋は原則として主筋の内側とする。
7. 鉄筋の定着はき



8. なるべくあばら筋とみなす。

柱はり打ち増し補強筋



適用範囲	孔の径と補強筋	配筋図
$\phi \leq 100$	な な な 1-(2-D13) た て 2-(2-D13) よ こ な し 上 下 8・9・P な し	
$100 < \phi \leq 150$	な な な 4-(2-D13) た て 2-(2-D13) よ こ 2-(2-D13) 上 下 S・T・P 1-(2-D13)	
$150 < \phi \leq 250$	な な な 4-(2-D13) た て 2-(2-D13) よ こ 2-(2-D13) 上 下 S・T・P 2-(2-D13)	
$250 < \phi \leq 350$	な な な 4-(2-D13) た て 2-(2-D13) よ こ 2-(2-D13) 上 下 S・T・P 4-(2-D13)	
$350 < \phi \leq 400$	な な な 4-(2-D13) た て 2-(2-D13) よ こ 2-(2-D13) 上 下 S・T・P 4-(2-D13)	

鉄筋の基準配筋
次の基準配筋は下図により、鉄筋を決定する。

鉄筋	断面	基準配筋
W10	100	D10-250mm シングル
W12	120	D10-200mm シングル
W15	150	D10-200mm ダブル
W20	180	D10-200mm ダブル
W25	200	D10-200mm ダブル

(注) 鉄筋の量は、断面(9)又は(10)に1,000mm程度とする。

鉄筋	断面	基準配筋
W10	100	D10-200mm ダブル
W12	120	D10-200mm ダブル
W15	150	D10-200mm ダブル
W20	180	D10-200mm ダブル
W25	200	D10-200mm ダブル

(注) 1. 断面(9)の外側に配筋する。
2. 鉄筋の量は、断面(9)又は(10)に1,000mm程度とする。

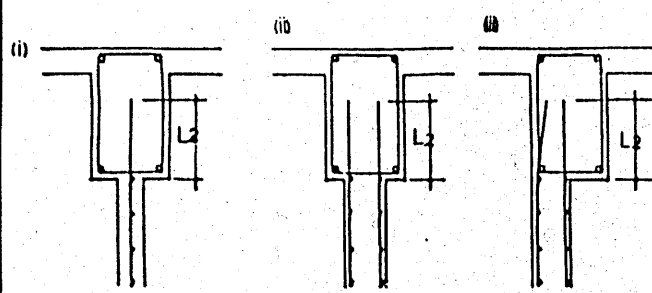
鉄筋	断面	基準配筋
W10	100	D10-200mm ダブル
W12	120	D10-200mm ダブル
W15	150	D10-200mm ダブル
W20	180	D10-200mm ダブル
W25	200	D10-200mm ダブル

鉄筋	断面	基準配筋
W10	100	D10-200mm ダブル
W12	120	D10-200mm ダブル
W15	150	D10-200mm ダブル
W20	180	D10-200mm ダブル
W25	200	D10-200mm ダブル

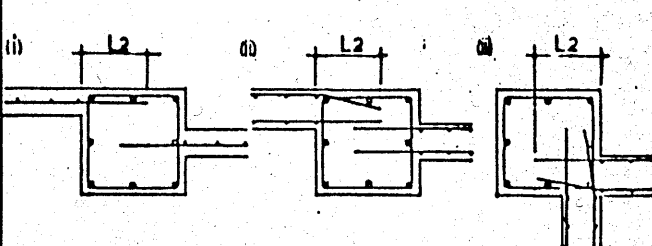
鉄筋の基準配筋

一般部

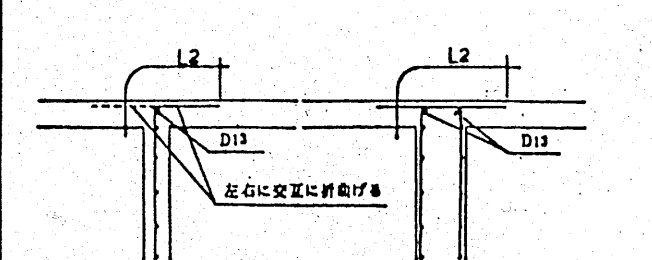
1. はりへの配筋



2. 柱への配筋

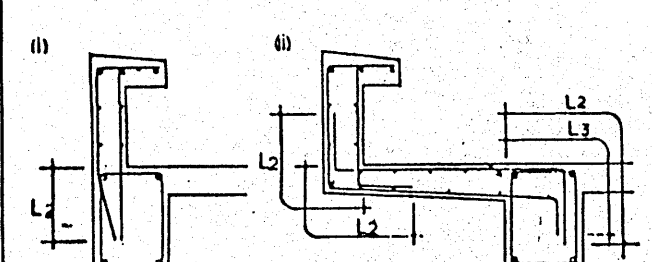


3. 床スラブへの配筋

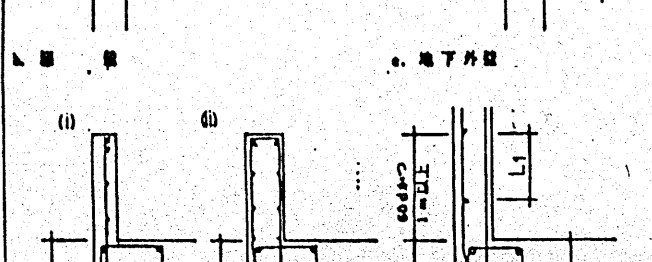


その他の配筋

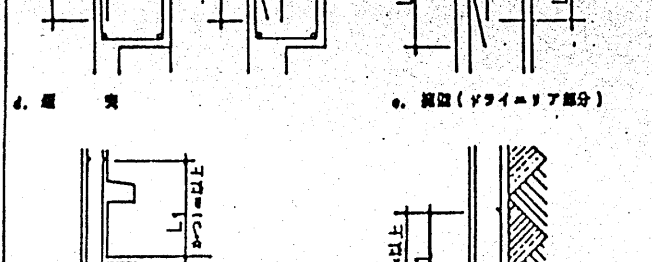
4. パラペット



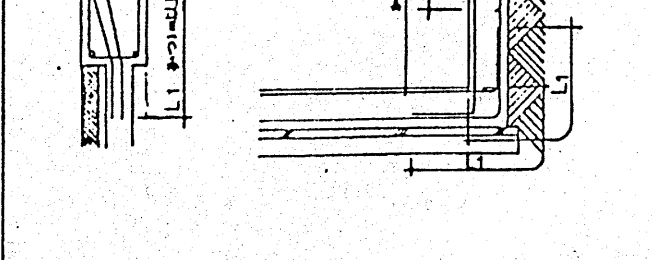
5. 地下外壁



6. 基礎



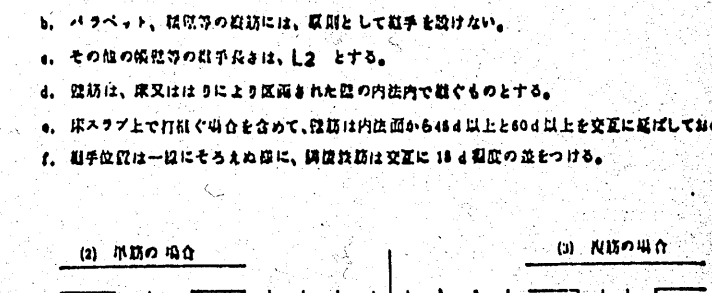
7. 開口部



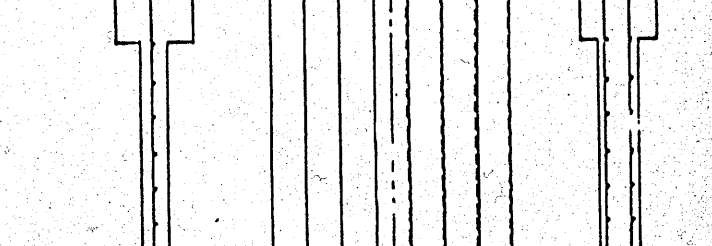
鉄筋の基準配筋

一般部

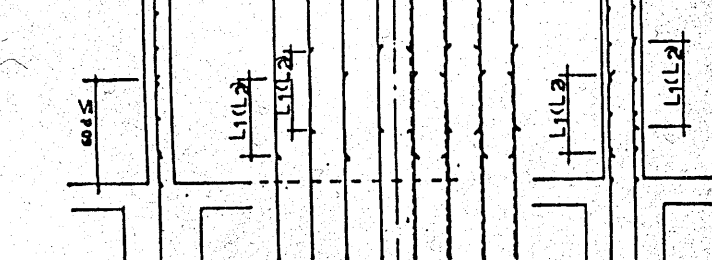
1. はりへの配筋



2. 柱への配筋

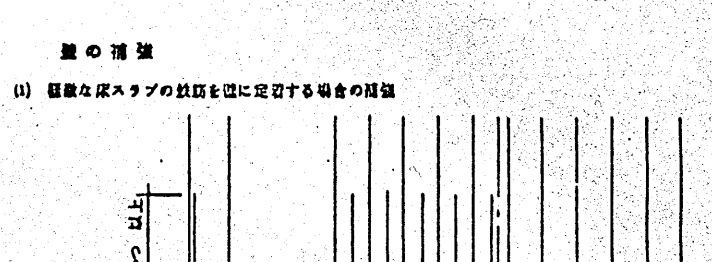


3. 床スラブへの配筋

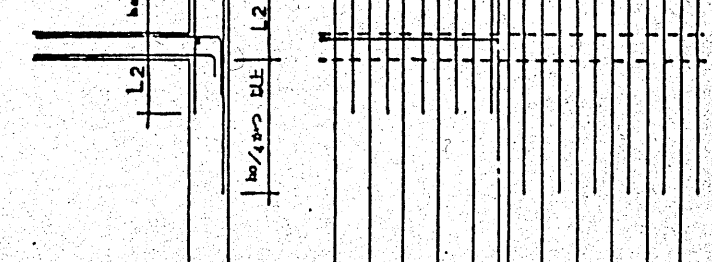


その他の配筋

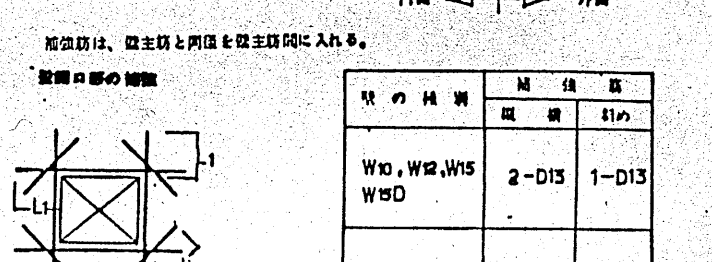
4. パラペット



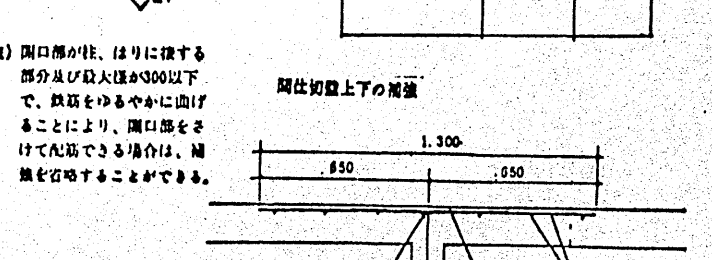
5. 地下外壁



6. 基礎

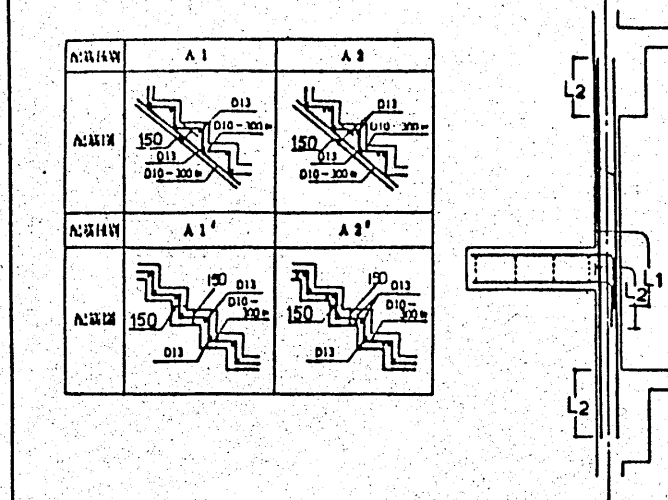


7. 開口部



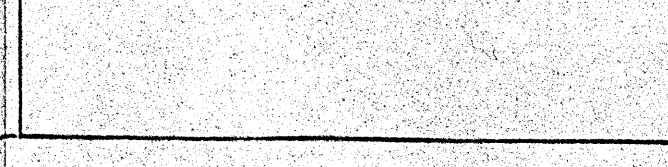
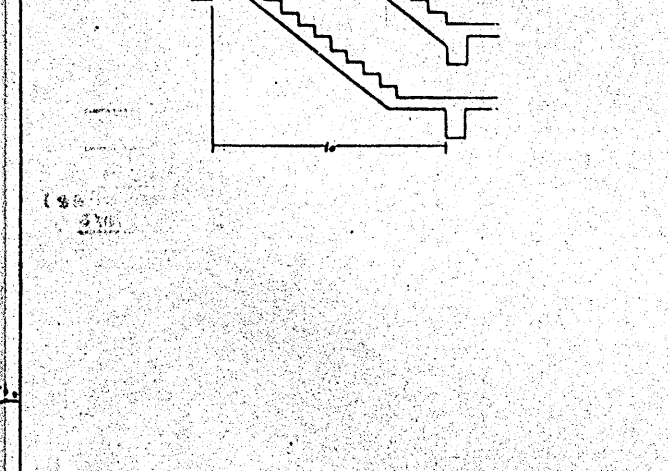
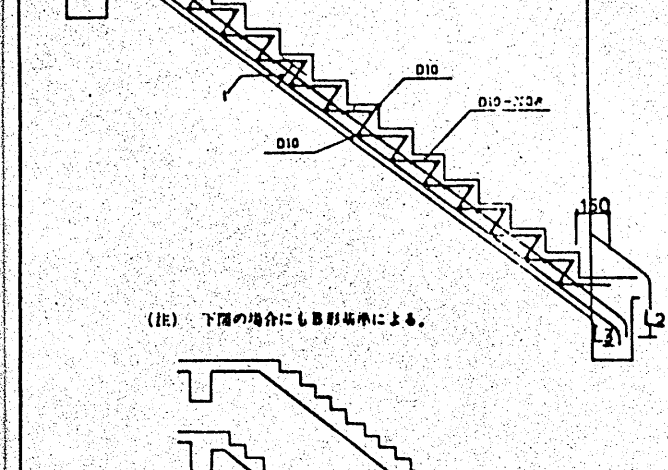
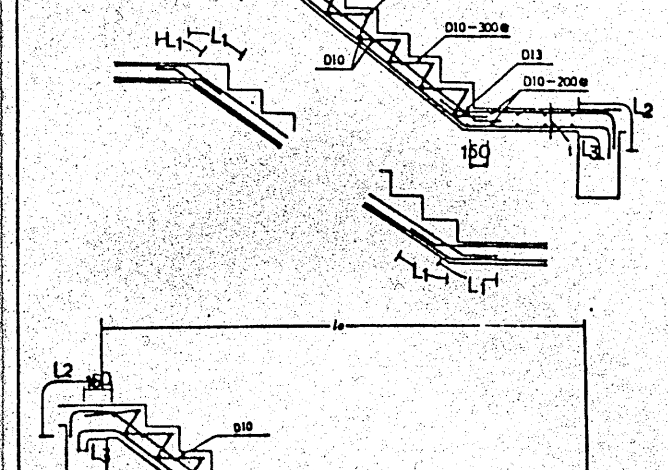
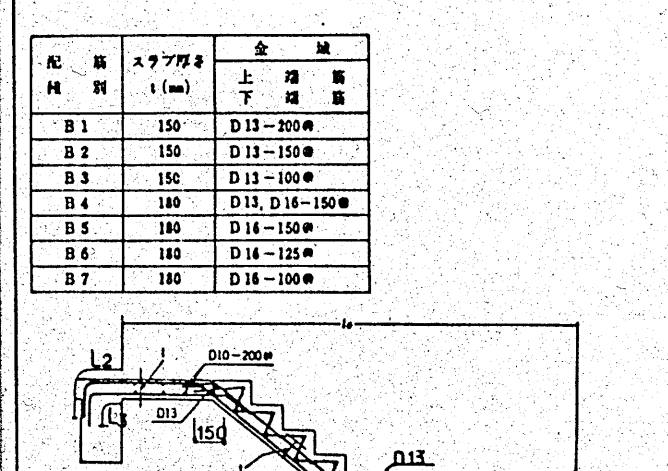
片持ち床版形

A形、A'形基準配筋



二辺固定床版形

B形基準配筋



コンクリートブロック間仕切

一般部

(1) 鉄筋の基準配筋(鉄筋、へいなどの鉄筋を除く)及び定着の長さは

表による。

適用箇所	鉄筋の長さ	定着の長さ
一般部分の配筋	25d	25d
開口部周辺の配筋	40d	40d

(2) 鉄筋の定着部は、鉄筋用ブロックを使用し、鉄筋は鉄筋に鉄筋で固定する。

(3) 鉄筋、へいなどの鉄筋は、鉄筋を定着してはならない。ただし、鉄筋の長さ5d(4は公称径)以上の両側アーク固定を行う場合は、鉄筋を定着することができる。

(4) 鉄筋に対するコンクリート又はモルタルの厚さは、30mm以上とする。

(5) 間仕切部のコンクリートブロックの厚さは、厚100の場合18段、厚150においては18段を最大とし、その上又は下に同じ厚さの鉄筋コンクリート板を設ける。鉄筋の配筋は、鉄筋D10-200とする。

鉄筋の配筋を決定する。ただし、必要場合は、鉄筋を標準とする。

鉄筋	鉄筋
D10-400mm	D10-400mm

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

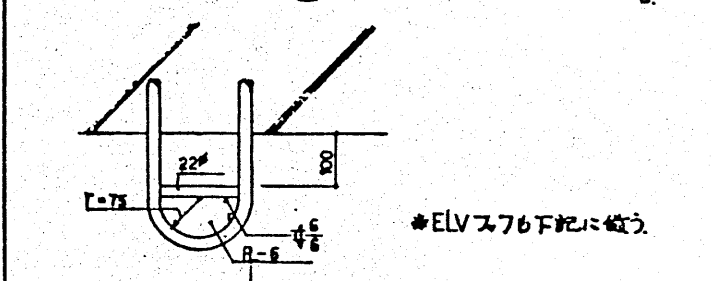
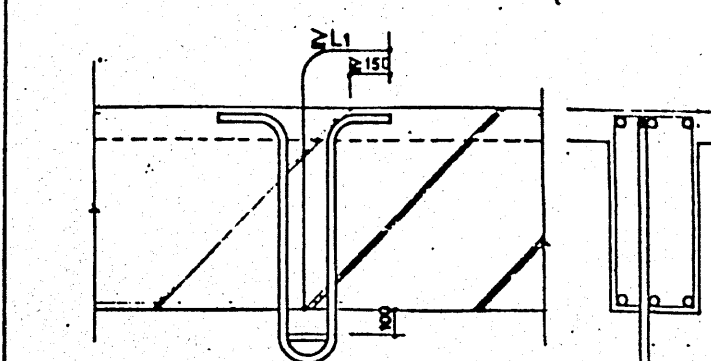
変形部、開口部の配筋

変形部、開口部の配筋

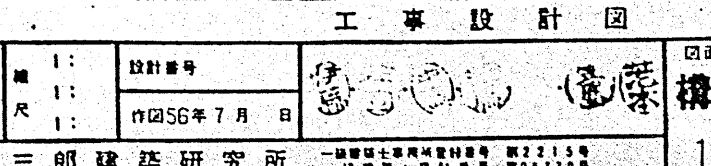
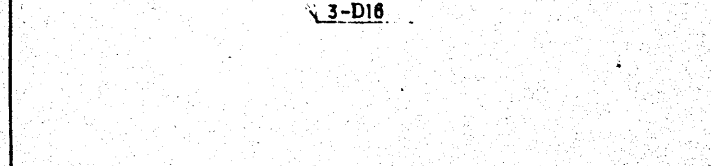
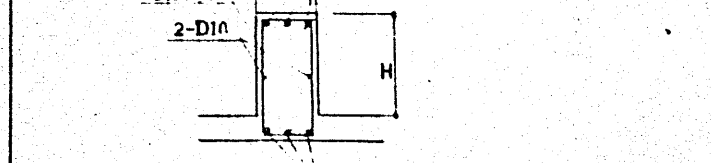
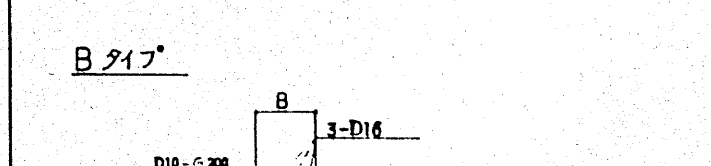
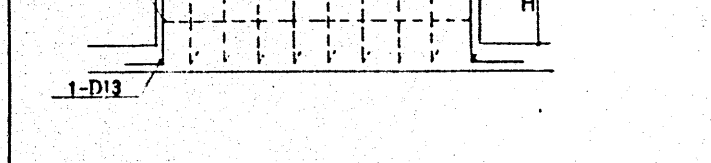
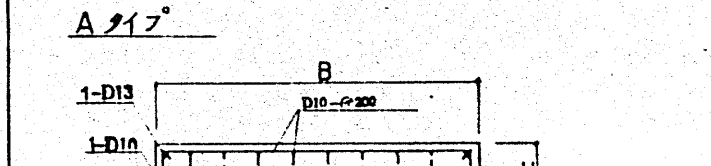
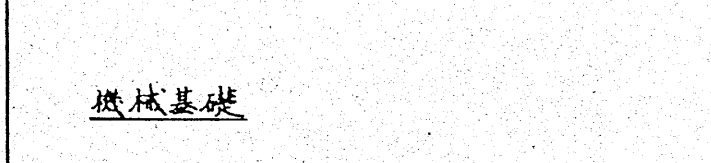
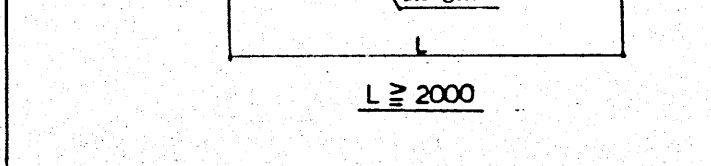
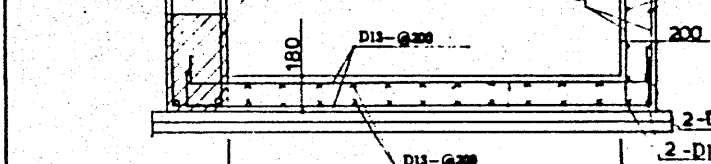
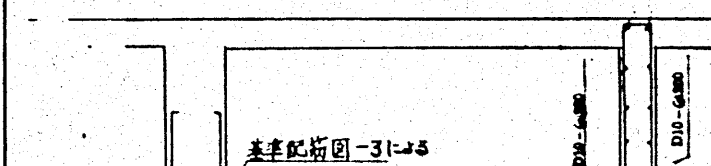
変形部、開口部の配筋

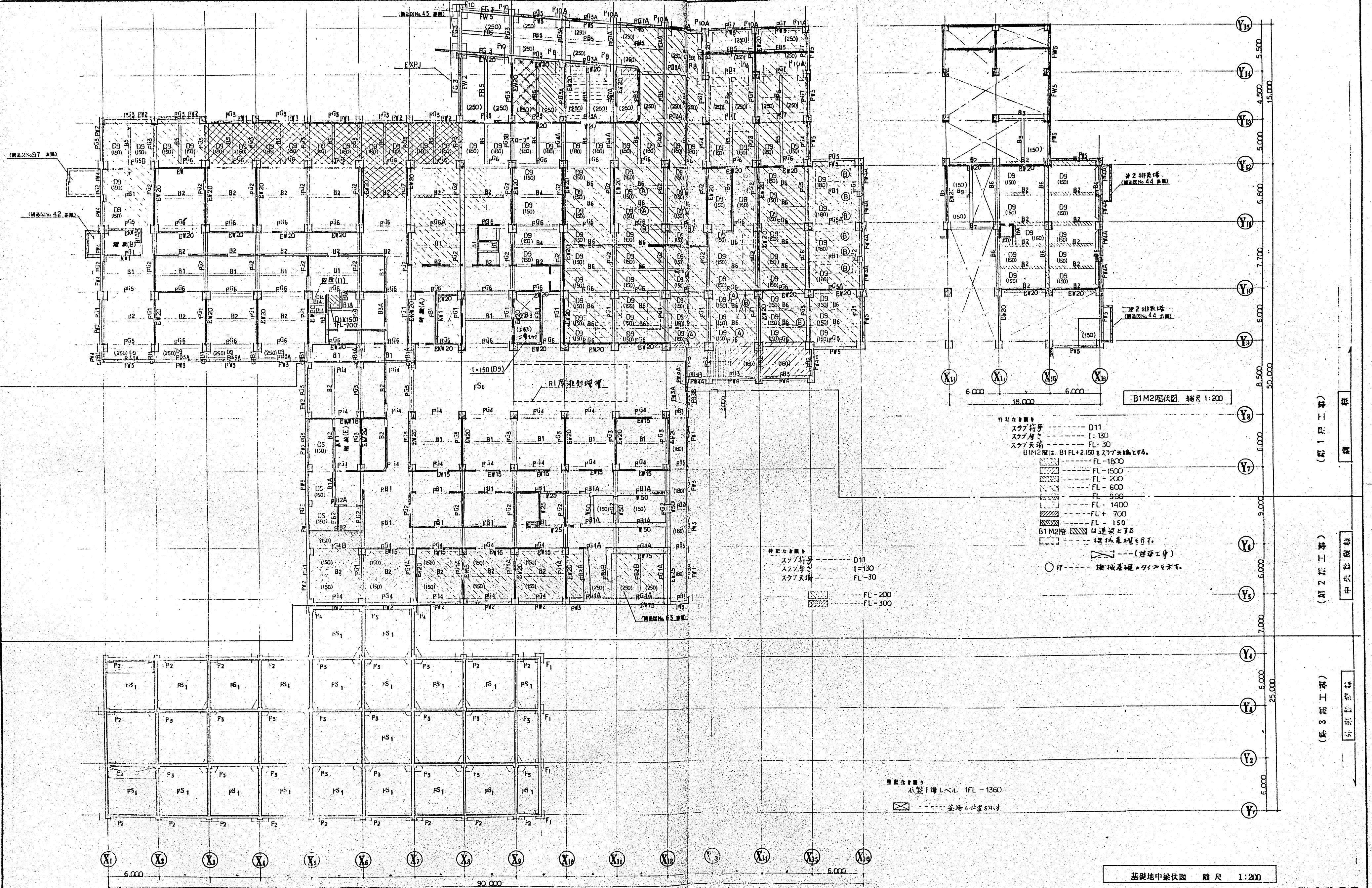
変形部、開口部の配筋

吊钩フック



吊钩重量	吊钩直径	吊钩号
3 ton MF	22φ	
6 ton MF	25φ	





(第1期工事)

(第2期工事)

(第3期工事)

中央給排水

中央給排水

中央給排水

基礎地中梁伏図 縮尺 1:200

第3期工事
外来診療棟

建設事務局		小田原市立病院建設		工事設計図	
局長 係長 係員		縮尺 1:200	設計番号	図面番号	
		縮尺 1:200	作図56年7月	構造	
株式会社 伊藤 三郎 建築研究所		一級建築士事務所登録番号 第2213号		15	
		一級建築士事務所登録番号 第0577号			